

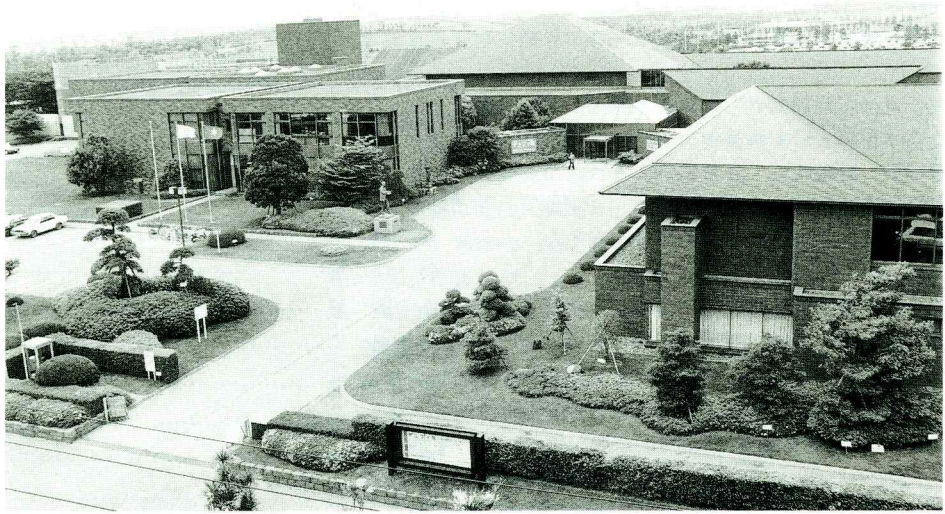
みる・かたる・つくる

千葉県立美術館年報

昭和63年度

CHIBA PREFECTURAL MUSEUM OF ART





千葉県立美術館全景

目 次

ごあいさつ	1
美術館誌	2
事業一覧	3
展示事業	5
常設展	6
特別展	12
企画展	17
普及事業	22
教育普及	23
年度収集図書	30
博物館実習	35
県芸術祭	36
団体展	38
利用状況	42
作品貸出一覧	43
友の会	45
収集事業	47
年度収集作品	48
昭和63年度末収蔵作品一覧	50
管理運営	51
機 構	52
施 設	54
刊行物一覧	55
平成元年度主要事業	56
利用案内	57

ごあいさつ

昭和63年度における千葉県立美術館運営の実態を年報としてまとめましたので、お届けします。

本館は、昭和49年の開館以来の運営方針であります「みる・かたる・つくる」を三位一体のものとして、総合的に展開して、県民の美術的要請にこたえるよう努めております。

本年度も、地域に密着した美術館として、まず、房総関係作家の展覧会、「石井柏亭と近代絵画の歩み」展及び「笹岡一展」を開催し、その業績を顕彰しました。また、近代美術館として、優れた美術作品を鑑賞する機会を提供するため、国際的視野にたった外国作家の作品を紹介する「デュフィ展（光と色彩のシンフォニー）」を開催しました。更に、「第3回現代日本具象彫刻展」を実施しました。

一方、館が収蔵する作品の展示については、一層の充実・強化に努め、館における常設展を、2期にわたりテーマ別に開催するとともに、館外における移動美術館展も2地域で実施しました。

また、美術についての理解を深め、作品鑑賞の一助とするため、特別展・企画展に関連づけて美術講演会を開催するとともに、美術の各分野にわたる実技講座も、入門講座・研修講座・自主講座に分けて実施し、美術を語る会も実技を中心に構成するなど、増加の一途をたどる県民の美術創作への意欲に対応してまいりました。

館が収蔵すべき作品の収集については、既に策定されている基本方針に基づき、作家や収蔵家の協力を得つつ、コレクションの体系化とその充実に努めてきました。

館の諸活動が活発化するに伴い、施設の拡充が内外から望まれていましたところ、展示棟865㎡、収蔵庫544㎡、機械室284㎡の増築工事が竣工しました。

今後とも、関係諸機関及び各団体並びに県民の皆様の御指導と御支援をお願いいたします。

平成元年4月

千葉県立美術館長

竹 内 一 雄

美術館誌

- 4月1日 辞令交付
- 5月14日 特別展「デュフィ展」(6月19日まで)
15日 デュフィ展開催にともない、ニース美術館
統括館長クロード・フルネ氏来館
28日 第1回美術を語る会
- 6月4日 第1回美術講演会
17日 第1回美術館研究員会議
18日 第2回美術を語る会
28日 常設収蔵作品展(Ⅰ期、9月4日まで)
28日 美術館友の会役員会
- 7月9日 第3回美術を語る会
21日 美術館友の会春の美術鑑賞の旅
28日 第1回美術館協議会
- 8月1日 小池賢博が副館長に任命される
27日 第4回美術を語る会
31日 展示棟第8室・収蔵庫・機械室増設工事完了
- 9月3日 第5回美術を語る会
6日 第13回葉美会展(11日まで)
10日 特別展「石井柏亭と近代絵画の歩み」
(10月16日まで)
17日 第2回美術講演会
24日 第6回美術を語る会
- 10月7日 第2回美術館協議会
13日 美術館友の会秋の美術鑑賞の旅
- 11月12日 第7回美術を語る会
17日 第12回千葉県移動美術館(館山市コミュニティセンター、11月30日まで)
- 12月3日 第12回千葉県移動美術館(袖ヶ浦町立根形公民館、12月14日まで)
13日 常設収蔵作品展(Ⅱ期、3月31日まで)
- 1月21日 第8回美術を語る会
- 2月4日 企画展「第3回現代日本具象彫刻展」
(2月26日まで)
11日 第9回美術を語る会
14日 企画展「笹岡了一展」(3月12日まで)
- 3月4日 第10回美術を語る会

昭和63年度 事業一覧

太字は本館の企画展

月	みる	かたる	つくる
4	第12回鳳聲会書作展 4/26～5/1 武蔵野美術大学校友会千葉県支部展 4/26～5/1 第15回千葉新協展 4/26～5/1 第8回千葉美術工芸展 4/26～5/8 第14回歩会彫刻展 4/26～5/8		
5	第28回白扇書道会展 5/3～5/8 第19回表美展 5/3～5/8 第25回全日本総合書道大観覧会 5/10～5/15 第11回千葉展 5/10～5/15 特別展「デュフィ展」 5/14～6/19 第12回墨の県展 5/17～5/22 第33回二科会千葉支部展 5/24～5/29 千葉二紀展 5/24～5/29 第28回千葉市アマチュア美術会展覧会 5/31～6/5 第14回彗展 5/31～6/5	美術を語る会(1) 5/8	陶芸講座(1) (10日間) 彫刻講座 (10日間) ㊦デッサン入門講座(1) (3日間) デッサン講座(1) (8日間)
6	第10回新槐樹社千葉県支部展 6/7～6/12 第11回千葉一陽展 6/7～6/12 第15回千虹会日本画展 6/7～6/12 第13回関東全展 6/14～6/19 千葉幼児美術展 6/14～6/19 第3回日本画四季展 6/14～6/26 第35回千葉県書道協会展 6/21～6/26 第2回千葉水彩展 6/21～6/26 常設収蔵作品展 I 6/28～9/4 第32回千葉県小・中・養護学校 児童生徒書写展覧会 6/28～7/3 第6回明日を拓く教育美術展 6/28～7/3 第17回千葉市勤労者美術展 6/28～7/3 第11回精鋭展 6/28～7/3	美術講演会(1) 6/4 美術を語る会(2) 6/8	日本画講座 (10日間) ㊦洋画入門講座(1) (6日間) 書芸講座(1) (4日間) ㊦七宝焼入門講座 (2日間) 洋画講座(1) (12日間) 版画講座 (12日間) ㊦書芸入門講座 (4日間)
7	第20回千葉市水墨画同好会連合会展 7/5～7/17 第16回水彩連盟千葉支部展 7/19～7/24 第66回習美会初夏大作展 7/19～7/24 第5回千葉中美展 7/19～7/24 第22回漱雲会全国書道展 7/26～7/31 第8回千葉サンケイ現代洋画展 7/26～8/7	美術を語る会(3) 7/9	
8	第17回写真真千葉県展 8/2～8/14 日本水彩画会第4回千葉県支部展 8/6～8/14 第34回静雅書道会小中学部千葉地区展 8/16～8/21 第9回龍峽書道会千葉県人展 8/16～8/21 第12回尽墨会書作展 8/16～8/21 第18回いてふ会彫刻展 8/16～8/28 昭和63年度第16回千葉市教職員美術展覧会 8/23～8/28 第21回千葉県高等学校合同写真展 8/23～8/28 第8回日本春秋書院千葉県書道連盟展 8/23～8/28 第6回日中友好書道展覧会 8/30～9/4	美術を語る会(4) 8/7	㊦デッサン入門講座(2) (3日間) 洋画講座(2) (12日間) ㊦陶芸入門講座 (5日間) ㊦金工入門講座 (6日間)
9	第13回葉美会展 9/6～9/11 第18回新構造千葉支部展 9/6～9/11 特別展「石井柏亭と近代絵画の歩み」 9/10～10/16 千葉等廻展 9/13～9/18 第4回日本書道学会千葉県連展 9/13～9/18	美術を語る会(5) 9/8	㊦彫塑入門講座 (7日間)

月	み	る	か	た	る	つ	く	る	
9	昭和63年度千葉県芸術祭 第11回千葉県写真展 第38回千葉デザイン展 第35回千葉県勤労者美術展 第26回新世紀美術協会千葉支部展 昭和63年度第31回千葉市小中養護学校 児童生徒総合展覧会	9/13～9/25 9/20～9/25 9/20～9/25 9/20～9/25 9/27～10/2	美術講演会(2)		1/7	美術を語る会(6)		3/4	書芸講座(2) (4日間)
10	第14回秋耕会千葉支部展 第15回文化書道千葉県連合会公募展覧会 第8回二科会写真部千葉支部展 第20回ファンシー洋画展 第20回現展千葉支部展 ダネラ・デコパージュ展覧会 第40回千葉県美術展覧会(県展)	10/4～10/10 10/4～10/10 10/4～10/10 10/12～10/16 10/12～10/16 10/12～10/16 10/22～11/13							陶芸講座(2) (10日間) ⑤洋画入門講座(2) (6日間)
11	千葉県高等学校総合芸術祭 美術・工芸・書道作品展 第12回千葉県移動美術館(館山市) 第33回こども県展	11/16～11/27 11/17～11/30 11/29～12/11	美術を語る会(7)		1/12				④てん刻入門講座 (3日間) 洋画講座(3) (12日間) ⑤版画入門講座 (7日間)
12	第12回千葉県移動美術館(袖ヶ浦町) 常設収蔵作品展Ⅱ 第6回明るい社会づくり ポスターコンクール展覧会 今日の美術を考える会展	12/3～12/14 12/13～3/31 12/13～12/18 12/13～12/25							書芸講座(3) (4日間)
1	第24回登龍社宮坂会書初展 第18回千葉県大学美術連盟展 第16回富士百景写真展 子ども造形展 親子絵画展 第16回現代書壇代表展・現代書壇巨匠展 千葉書壇秀抜展・千葉書壇新進展 千葉市観光絵画と写真コンクール作品展 第4回書星選抜展 第6回千葉県医師会美術展 第22回千葉県老人クラブ会員作品展 群鷗書人展 第41回千葉県小中高校書初展覧会 昭和63年度千葉市小中養護学校 児童生徒書初展覧会	1/5～1/8 1/5～1/8 1/10～1/16 1/10～1/16 1/10～1/16 1/18～1/22 1/24～1/29 1/24～1/29 1/24～1/29 1/24～1/29 1/31～2/5 1/31～2/5 1/31～2/5	美術を語る会(8)		1/21				デッサン講座(2) (8日間) ④日本画入門講座 (7日間)
2	企画展「第3回現代日本具象彫刻展」 千葉大学教育学部美術科卒業制作展 第22回千葉大学学生書道展 企画展「笹岡一展」 第12回唱和会書展 幕張北高校書道コース卒業制作展 第14回千葉県民写真展 第10回千葉藍筍会かな書作展 和洋女子大学卒業展(雁鴻会書道展)	2/4～2/26 2/7～2/12 2/7～2/12 2/14～3/12 2/14～2/19 2/14～2/19 2/14～2/26 2/21～2/26 2/21～2/26	美術を語る会(9)		3/1				⑤洋画入門講座(3) (6日間)
3	昭和63年度第20回記念千葉市民美術展覧会 第36回書星教育部展	3/1～3/19 3/21～3/26	美術を語る会(10)		3/4				

展 示 事 業

常設収蔵作品展を年2期に分けて開催し、特に浅井忠の作品資料は常時展示した。

特別展としては、「デュフィ展（光と色彩のシンフォニー）」と「石井柏亭と近代絵画の歩み」を開催した。

企画展としては、「房総の美術家シリーズ—18—笹岡一展」と「第3回現代日本具象彫刻展」を開催したほか、「第12回千葉県移動美術館」を、館山市コミュニティセンターと袖ヶ浦町立根形公民館において開催した。

常 設 展

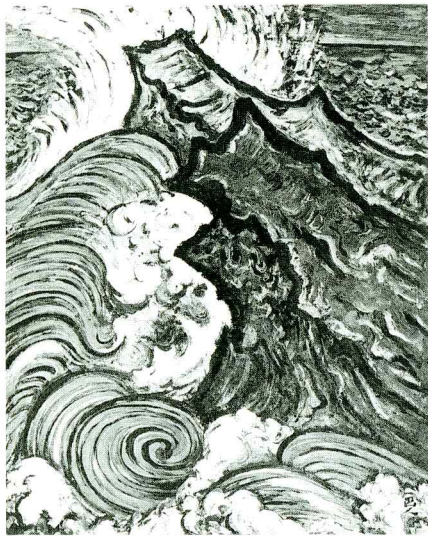
常設 収蔵作品展 (第I期)

今年度常設収蔵作品展第I期は、本館が収蔵する近代日本美術の発展に大きく貢献した浅井忠をはじめ、工芸の香取秀真、津田信夫などの房総ゆかりの作家の作品を中心に、コロニー、クールペなど国内外の作家の作品を展覧した。また、浅井忠のコーナーを設け、油彩、水彩、素描をはじめ日本画、テラコッタ、図案など多彩な制作活動を紹介した。

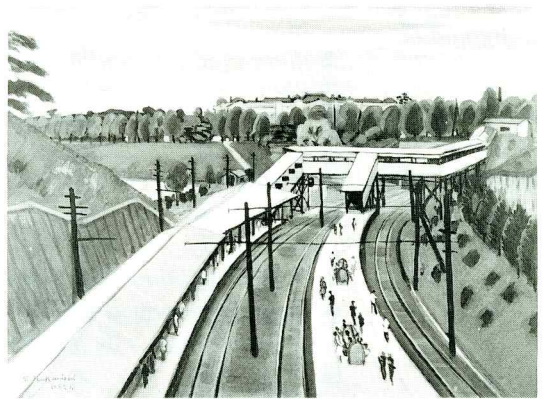
会 期 昭和63年 6月28日(火)～9月4日(日) 60日間
 展示点数 80点
 入場者数 28,386人

出 品 目 録

作 家 名	作 品 名	作 家 名	作 品 名
日 本 画		津 田 永 寿	幾 星 霜
吉 岡 堅 二	濤 門 夜 岩 礎 図	鈴 木 治 平	湿 原 の 詩
東 山 魁 夷			
渡 辺 学 人	波 濤 夜 岩 礎 図	書	
岩 崎 巴 人		大 石 隆 子	待 天 君
関 主 税 男		小 暮 青 風	故 郷 之 山 河
松 尾 敏 男	歴 山 門 雨 程 後	種 谷 扇 舟 松	視 思 の 詩
後 藤 純 男		浅 見 錦 龍	良 寛 の 詩
洋 画		版 画	
丸 山 晚 霞	長 野 水 内 風 景	浜 口 陽 三	パ リ の 屋 根
大 下 藤 次郎	紫 陽 城 花 址	〃	さ く ら ん ぼ と 青 い 鉢
三 宅 克 己	小 諸 城 の 村	牛 玖 健 治	作 品 鏡
赤 城 泰 舒	赤 屋 根 の 宮 と	深 沢 幸 雄	古 い 楽 譜 影
中 西 利 雄	曇 り 日 の 離 宮 と	〃	掌 の 中 の 旅
不 破 章 進	裁 縫 山	池 田 満 寿 夫	夜 の 旅
小 堀 進		池 田 良 二	Scattered Seeds
彫 刻		新収蔵作品	
大 須 賀 力	も た れ る	立 石 秀 春	九 十 九 里
佐 藤 忠 良	ラ ッ プ 帽	足 立 源 一 郎	カ ー ニ ュ に て
舟 越 保 武	婦 人 像	安 藤 信 哉	パ リ の 窓 き
鈴 木 本 正	存 在 す る 私	宮 城 泰 介	嘆
	ヴ ァ ー ジ ニ ア	関 正 司	I R O N L A D Y
工 芸		津 田 信 夫	蜻 蛉 耳 花 生 鳥
香 取 秀 真	鳳 凰 文 様 花 瓶	〃	瓢 白
津 田 信 夫	北 辺 夜 猫 子	〃	
香 取 正 彦	臚 銀 玉 錯 花 瓶	〃	
会 田 富 康	青 銅 双 鳥 置 物	〃	
大 須 賀 喬	昆 蟲 文 飾 皿	〃	
信 田 洋 行	乳 装 銀 瓶	〃	
帖 佐 美	香 実 と 想 鳥	三 村 比 呂 志	想 曲



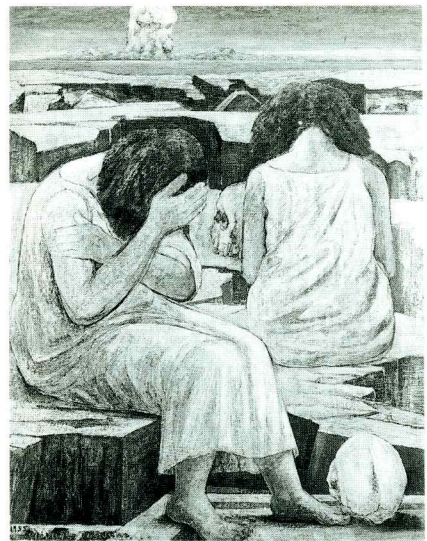
岩崎巴人「波濤岩礁図」



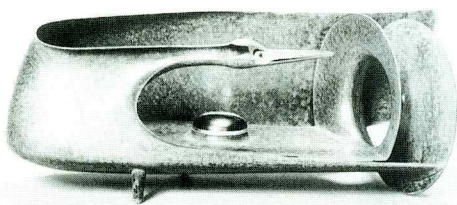
中西利雄「曇り日の離宮と駅」



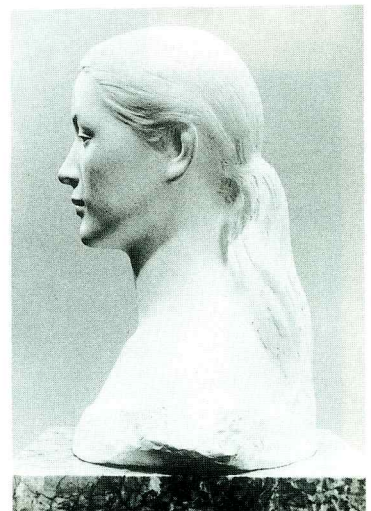
小暮青風「天 颯」



宮城泰介「嘆 き」



鈴木治平「湿原の詩」

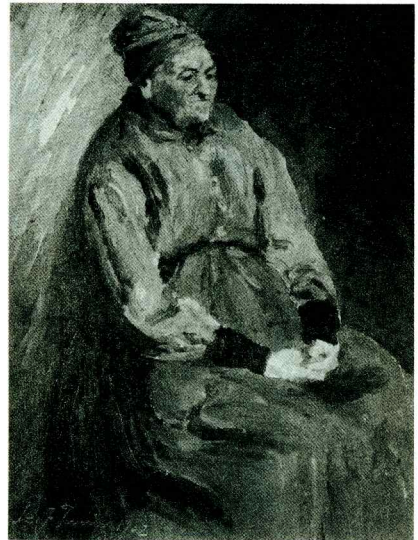


舟越保武「婦人像」

作家名	作品名	作家名	作品名
浅井 忠	薬屋根	浅井 忠	ほしかき
〃	フォンテンブローの夕景	〃	狂女
〃	農婦像	〃	古名城
〃	老母像	〃	お福の像
〃	母の肖像	〃	お花の像
〃	印旛沼	〃	教科書・スケッチブック類
〃	沢入駅	松岡 寿	森と小川
〃	磐梯山の図	石井 柏亭	聖フランチェスコ寺院
〃	貌子窩第二軍司令部の森	安井 曾太郎	熱海付近
〃	フォンテンブローの夕陽	梅原 龍三郎	竹窓読書図
〃	洋上の特学校庭	カミーユ・コロー	フォンテンブローの風景
〃	京都高等工芸学校の庭	アントニオ・フォンタネージ	神女之図
〃	中沢岩太像	ギュスターヴ・クールベ	雪の中の小鹿
〃	田植之図		



浅井 忠「フォンテンブローの森」



浅井 忠「農婦」



浅井 忠「母の肖像」

常設 収蔵作品展（第Ⅱ期）

今年度常設収蔵作品展第Ⅱ期は、前期と後期に分け、展示替えをして開催した。

前期では浅井忠が最も優れた技量を発揮したといわれる水彩画の作品を中心に、周辺作家の水彩画作品と併せ、日本の近代水彩画史をたどる展覧とした。

後期では、浅井忠のデッサンを重点的にとりあげ、周辺作家の作品とともに展覧、また今年度新収蔵作品を順次紹介した。

また、今年度基金取得作品のミレー、コロー、クールベ及びトロワイヨン等関連作家の作品による特別展示コーナーを設けた。

会 期 前期 昭和63年12月13日(火)～平成元年2月5日(日)
後期 平成元年2月7日(火)～2月26日(日)、
3月23日(木)～3月31日(金)

65日間

展示点数 127点

入場者数 29,429人

出 品 目 録

前 期

作 家 名	作 品 名
浅 井 忠	風 景
〃	沢 入 駅
〃	金 州 城 壁 上
〃	フォンテンブローの森
〃	男 性 裸 像
〃	洋 上 の 夕 陽
〃	京都高等工芸学校の庭
牧 野 克 次	松 林 景
中 林 儼	冬 の 風 景
加 藤 源之助	秋 の 山 (大和初瀬村)
石 井 柏 亭	舟 に 居 る 人
長 谷 川 良 雄	晩 秋
田 中 善之助	聖 護 院 の 裏
河 合 新 蔵	竹 林 図
丸 山 晚 霞	長 野 水 内 風 景
大 下 藤 次郎	青 梅 煙
石 川 欽一郎	赤 城 淡
真 野 紀 太郎	バ ー ン
白 滝 幾之助	伊 国 ア シ
三 宅 克 己	小 諸 城
小 山 周 次	小 銚 子 犬 吠
赤 城 泰 舒	山 草 花
水 野 以 文	夕 景
後 藤 賀 春	江 外 風 景
古 西 利 雄	奥 鬼 怒 の 湯 治 場
不 破 章	山
小 堀 進	

作 家 名	作 品 名
新収蔵作品	前期
横 尾 芳 月	新 海 近 き 春 村
島 田 良 祐	新 海 新 古 郷 晩 雪
西 村 昭 二 郎	古 郷 郷 下 ト ン 夏
黒 沢 吉 蔵	国 ド ル ト ン 又
国 松 桂 溪	保 平 嘆 裸 軍 手 と 婦
西 川 泰 介	裸 軍 手 と 婦
宮 城 泰 介	裸 軍 手 と 婦
〃	裸 軍 手 と 婦
安 藤 信 哉	裸 軍 手 と 婦
〃	裸 軍 手 と 婦
〃	裸 軍 手 と 婦
本 郷 新 雄	裸 軍 手 と 婦
菊 池 一 雄	裸 軍 手 と 婦
蓮 田 修 吾 郎	裸 軍 手 と 婦
浅 見 蘭 秀	裸 軍 手 と 婦



島田良祐「海近き村」

後 期

作家名	作品名
浅井 忠	印 旛 沼
"	風 景 (1)
"	風 景 (2)
"	鍛 冶 橋
"	玉 流 川
"	溪 鎌 倉
"	曳 船 通 り
"	多 摩 摩 濱
"	房 州 白 村
"	房 州 波 太 景
"	白 浜 風 図
"	磐 梯 山 の 良
"	奈 平 城 大 仏 鐘 楼
"	パ リ 公 園 像
"	中 沢 岩 太 像
"	田 植 之 図
"	松 梅
"	琵琶 法 師
"	もろこしと鳳仙花
"	盗 賊 城
"	古 狂 女 詣
"	参 小 川
松岡 寿彦	森 林 バ 檜
伊藤 快剛	井 柏 亭 景
桜井 忠喜	石 井 英 作 像
都鳥 英彦	和 田 之 彦 朝 霧
霜鳥 清五郎	沢 部 時 雄 景
間部 重太郎	黒 田 儼 後 是
中 林 儼	"
"	保 津 川 上 流
安 井 曾太郎	"
"	"
"	"
田 中 志奈子	テ ッ サ ン (裸 婦)
"	テ ッ サ ン (裸 婦)
"	テ ッ サ ン (裸 婦)
"	テ ッ サ ン (棒を持つ裸体)
"	テ ッ サ ン (大原女)
"	テ ッ サ ン (裸 婦)
田 中 善之助	高 台 寺 町
"	出 加 茂 森
足 立 源一郎	下 加 茂 森
"	あ は 田
"	浄 土 寺 村 ニ テ

作家名 作品名

新収蔵作品 後期

日本画

島田 良祐	海 近 き 村
"	乳の祈り(チブサン古墳)
杉原 元人	寂 巖
渡辺 学	下 総 の 海 女

洋画

柳 敬助	婦 人 像
"	静 物
"	デッサン(腰かける裸婦)
"	デッサン(ポーズする裸婦)1
"	デッサン(ポーズする裸婦)2
石井 柏亭	真 間 の 入 江
"	木 場
"	印 旛 沼 原
"	佐 原
須田 国太郎	風 景 (漁 船)
"	デッサン(腰かける裸婦)
"	デッサン(膝に腕を置く裸婦)
"	デッサン(民家)
"	デッサン(猫)
"	デッサン(猿)
"	デッサン(ちゃぼ)
"	デッサン(鷺)
"	デッサン(水辺風景)
"	デッサン(一乗寺天台高僧像)
"	デッサン(能舞台)

彫刻

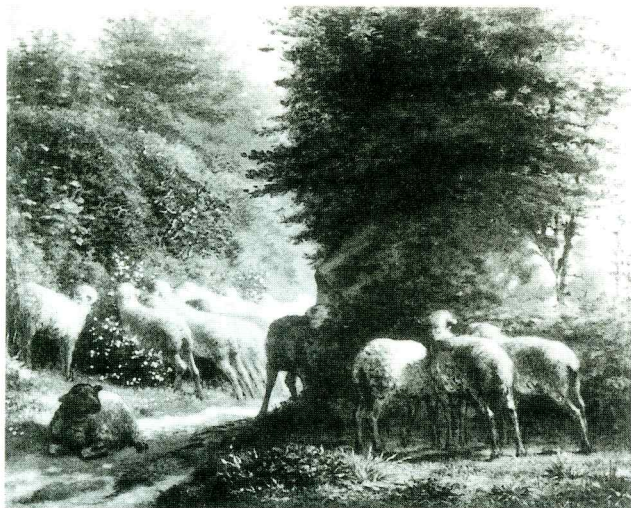
本郷 新	裸 婦
菊池 一雄	手 を 挙 げ る

工芸

鹿島 一谷	布目象嵌菱つなぎ文南鐻水差
関谷 四郎	銅 鉄 壺
増村 益城	乾 漆 波 文 溜 塗 盛 器
蓮田 修吾郎	鐘がなるリュウベック
武田 武弘	ランボアの詩より「朝」

特別展示コーナー

ジャン・フランソワ・ミレー	垣根に沿って草を食む羊
ジャン・バティスト・カミーユ	ナポリ近郊の思い出
コンスタン・ロワイヨン	河 辺 の 道
ギュスターヴ・クールベ	眠 る 人
アントニオ・フォンタネージ	神 女 之 図
浅井 忠	フォンテンブローの夕景
"	老 母 像



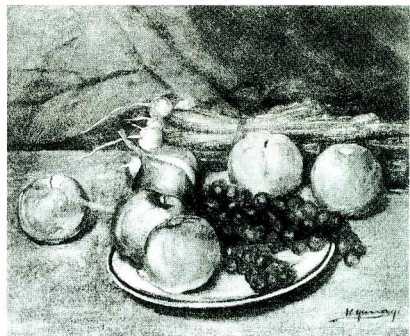
ミレー「垣根に沿って草を食む羊」



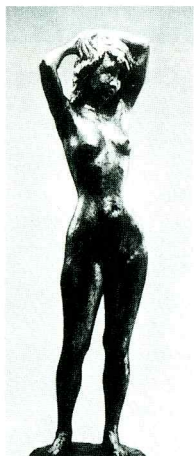
クールベ「眠る人」



トロワイヨン「河辺の道」



柳 敬助「静物」



菊地一雄「手を挙げる」



鹿島一谷
「布目象嵌菱つなぎ文南鐙水差」

特 別 展

デュフィ展

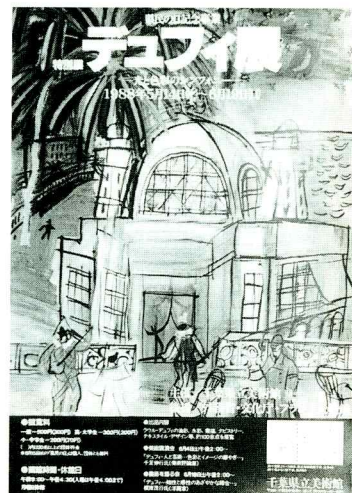
会 期 昭和63年 5月14日(土)～ 6月19日(日)

展示点数 104点

入場者数 10,891人

近代絵画史上に大きな足跡を残したフランスの画家ラウル・デュフィ (1877～1953) は、はじめ印象派・フォーヴィスム・キュビスムなど近代絵画の美術運動の影響を受けたが、のちに明るく新鮮な色彩と軽快な線のリズムによって、独自の画風をつくりあげた。

本展覧会では、デュフィの油彩、水彩、素描、タピストリー、テキスタイルデザインなどを展覧し、デュフィの業績を回顧し、彼のつくり上げた一光と色彩のシンフォニーの世界を鑑賞できる会場とした。この展覧会は昭和58年9月、千葉県の人口が500万を突破したのを記念して制定された「県民の日」記念事業として実施した。



出 品 目 録

作 品 名	制作年	作 品 名	制作年
油 彩		ラングルの道	
風 景	1897	学 者 たち	1938
夕暮れのル・アーヴル港	1900	ヴェニスのアポロ	1939
パリ、サン＝ジェルヴェー聖堂		麦畑の東屋	1939～49
ぶらんこ		立像と二つの受水盤	
レスタックの船	1908	サント＝マクシムの大きな木	1942
赤い回教寺院	1909	ルノワール作《ムーラン・ド・ラ・ギャレット》による	1943
ブローニュの森にて	1909	アルルカン	1943
セギエ通りのアトリエの花束	1909	ヴェルネ＝レ＝バンの冬の庭	1943
ブローニュの森を自転車と自動車で走る人たち	1913	横たわる裸婦	
白い騎手	1914	カルダス・デ・モンパイの中庭の裸婦	1945
ヴァンズ	1919～20	ヴァンズのアトリエ	1945
魚と果物のある静物		ニースの花火の棧橋プロムナードのカジノ	1947
ル・アーヴルの水の祭り	1925	大音 楽 会	1948
マルセイユ市庁	1925	黄色い飾り机と二つの窓	1948
クロード・ロラン頌	1927	ペルピニャン、ジャンヌ＝ダルク通りのアトリエ	1949
モリ夫人の肖像	1927	浴 女	1950
ニース、棧橋プロムナードのカジノと二台の馬車	1927	ニース、棧橋プロムナードのカジノ	1950
デュフィ夫人の肖像	1930	マルセイユの港	1950～52
布の上に横たわる裸婦	1930	モーツァルト・コンサート	1951
レガッタ		メキシコの楽士たち	
ニースの五月祭	1930～33	サン＝タドレスの海岸	
ドラ ン 頌	1930～32	クロード・ドビュッシー頌	1952
貝殻を持つ裸婦	1933	イエールの公園	1952
モデル	1933	ヘンリーのレガッタ	1934～52
トゥルーヴィル港の入口		水彩・グワッシュ	
ドーヴィル、レガッタの出發	1935～36	サン＝ジャンネの岩山	
収穫の夕べ		マントン、サン＝ミッシェル教会の前庭	

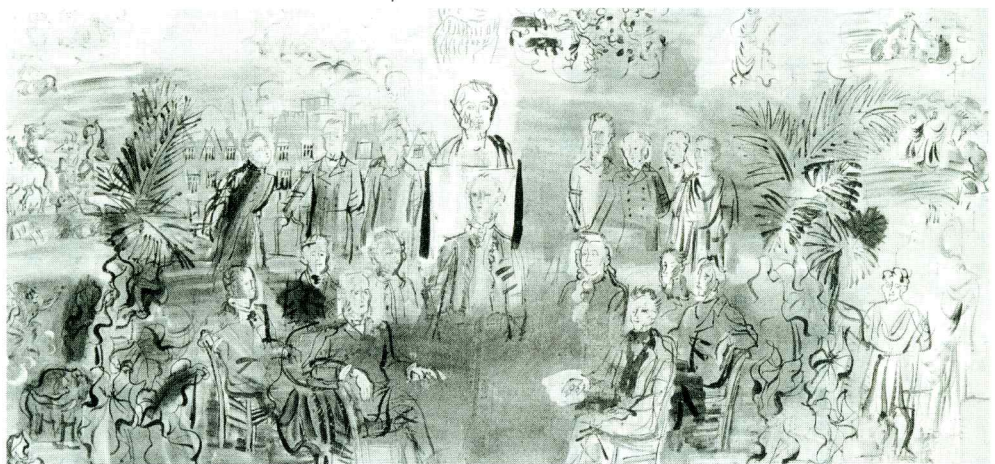
作 品 名	制作年
イギリス連隊のル・アーヴル巡視寄港	1927~29
ニース、プロムナード・デ・ザングレーと棧橋プロムナードのカジノ	1936
エプソムの紳士、騎手と馬	
キ ャ ン タ ー	
競 馬	
ルネサンスの城	
ぶどうの収穫	
マヌカン	1941
彫像と畑仕事	1941
サン＝ジャン墓地	1942
ヴァンス、画家のアトリエ	1945
ブラド美術館のティツィアーノ	1949
ニューヨーク、水兵のパレード	1950
アメリカの看板広告	1950
テレビ・スタジオ	
ボストンの野球場	1950~51
想像のヴェニス	
友人たちの夕べ	1951
アネモネ	1953

素 描

船

サン＝トロペ、ベイリ・ド・シュフランの彫像	
サン＝フランソワ広場の魚市場、ニース	
軍人たちの舞踏会	1928
コメディール・フランセーズの俳優	1932

作 品 名	制作年
音楽の集い、イギリス人愛好家の家にて	1932
田舎のレストラン	1932
泉	
ヴォラール家での晩餐	1935
アンジェの城	1936
音楽家	
ペルシュロン馬	
鹿毛の馬	
調馬	
背を向けて立てる裸婦	
ル・アーヴルの海辺	
自画像	
タピストリー	
立像と二つの赤い花瓶	1942
テキスタイル・デザイン	
コンポート、花と果物のあるコンポジション	
パリの花咲くバルコニー	
収 穫	
漁 り	
ネプチューン号の水夫	
ジグザグのフォルム、白地に赤と青	
シンコペーションのフォルム、赤、青、緑、黄	
薔 薇 と 蝶	
椰 子	
南瓜と果物と雲	
馬上の男女と優雅な貴夫人たち	
象	



デュフィ「学者たち」

石井柏亭と近代絵画の歩み

会 期 昭和63年 9月10日(土)～10月16日(日)
 32日間
 展示点数 165点
 入場者数 6,235人

石井柏亭（明治15～昭和33）は、船橋出身の日本画家鈴木鷺湖を祖父とし、柏亭自身しばしば千葉県に足跡を残すなど千葉県にゆかりの深い作家である。また柏亭は、浅井忠の高弟であり、明治期創設の主力美術団体である明治美術会や太平洋画会に作品を発表したほか、大正期には日本水彩画会や二科会、昭和期には一水会を組織するなど、日本の近代美術の展開に大きな役割を果たしている。

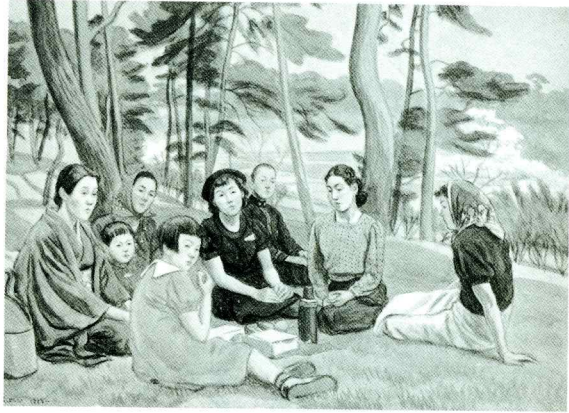
本展覧会では、石井柏亭の代表的な作品を展覧し、その軌跡をたどると共に、主要な関係作家の作品も併せて展覧し、近代絵画の展開に触れた。



出 品 目 録

作家名	作品名	作家名	作品名
石井 柏亭	萩 寺	石井 柏亭	農 閑
〃	草 上 の 小 憩	〃	鉢 鉢 伏
〃	ポ ン 駒 と 其 宝 物	〃	湯 沢 残 雪
〃	厨	〃	佐 渡 海 村
〃	老 太 々	〃	小 西 湖 晩 春
〃	外套を被たる婦人(深尾須磨子像)	〃	松 本 城
〃	ナ ポ リ 港	〃	佳 人
〃	サン・ミッシェル 橋	〃	春 爛 漫
〃	ア ス シ ジ	〃	バ イ プ の 男
〃	聖フランチェスコ寺院	〃	阿 武 隈 小 春 (絶筆)
〃	姉 妹	〃	病 児
〃	母 の 像	〃	真 間 の 入 江 (下図)
〃	麻 雀 場	〃	印 度 洋 上
〃	水 車	〃	巴 里 の 宿
〃	果 樹 園 の 午 後	〃	エ ト ル リ ア
〃	自 画 像	〃	シ ャ ラ ン ト ン
〃	朝 陽	〃	風呂のこわれ(トルコ風呂)
〃	與謝野夫妻像(與謝野寛・晶子)	〃	マ ラ ガ
〃	少 女 浴 泉	〃	ス ペ イ ン の 女
〃	安 倍 川	〃	ブ テ ィ 氏 像
〃	山 河 在 城	〃	ジ プ シ ー の 娘
〃	松 本 城	〃	オ ラ ン ダ の 老 婆
〃	蘆 花 湖	〃	獨 逸 の 婦 人
〃	青 木 湖	〃	N 氏 と その 一 家 (下図)
〃	安 曇 野 初 夏	〃	舟 に 居 る 人
〃	山 莊 の 朝 川	〃	草 の 上 人
〃	女 鳥 羽 川	〃	老 婦 人
〃	信 濃 乙 女	〃	フ ィ レ ン ツェ
〃	飯 士 山	〃	室 内
〃	暮 雲	〃	東郷大將敵將を見舞ふ(下図)
〃	信 州 風 景	〃	晩 春 行 楽 図
〃	画 室 小 集	〃	善 光 寺 街 道

特別展
石井柏亭と近代絵画の歩み
 昭和63年9月10日(土)～10月16日 午前9時 午後4時30分 入場は4時まで
 月曜日休館 10月10日は開館し翌日休館
 一般500円 300円 高 大学生300円 200円 小 中学生200円 70円
 主催 千葉県立美術館



石井柏亭「晩春行楽図」



石井柏亭「山河在」



石井柏亭「信州風景」

打
 流
 大
 市
 古
 小
 後
 土
 藤
 入
 山
 岡
 辻
 松
 山
 岡
 堀
 葉
 南
 佐
 梶
 長
 谷

企 画 展

— 21世紀への飛躍 —

第3回現代日本具象彫刻展

会 期 平成元年 2月4日(土)～2月26日(日)
20日間
展示点数 78点
入場者数 2,489人

千葉県が千葉市青葉町に建設している「青葉の森公園」(約53ha)内の「彫刻の広場」に設置する具象彫刻作品を、ひろく全国から公募するため、昨年に引き続き第3回現代日本具象彫刻展を開催した。この展覧会には公募により選ばれた大賞、及び入選作品、招待作家の作品を展示した。また参考展示として第1回、第2回展の招待作家、大賞受賞作家の作品もあわせて展覧し、具象彫刻の美をじっくりと鑑賞できる機会とした。

(主催=千葉県・千葉県教育委員会 運営=現代日本具象彫刻展実行委員会)

審査員

小川正隆 ※嘉田安雄 弦田平八郎
富山秀男 中村傳三郎 本間正義
三木多聞 (50音順) ※は審査会長



出 品 目 録

作家名	作品名	作家名	作品名
招待作家		高杉邦夫	ジャン・ケン・ポン
澁井敏夫	渚	長嶋栄次	鳥
大賞		宇野務	時
市村緑郎	森の詩	今野勝彦	海
古川武彦	絆	遠藤幹彦	炭
小寺真知子	三つの時代<Tre Generazione>	梅原正夫	森のなかま
後藤良二	ねじられたダイヤモンド構造	平戸美和子	ロンドン
土田隆生	<眩驚>—III	村上章一	西風
藤木康成	雲人(ファミリー)	中川ともみ	SENZA TITOLO
入選		尾崎真	萌え出づるもの(希望)
山下清	翔	海老根美奈子	出立(たびだち)の時
岡弘	汝がふるさとの窓	野口信夫	夢想
辻忍	丘の上の午睡	中嶋登茂美	シ—ソ—
松本光司	風の車	藤巻秀正	森の歌
山川玲子	夜明け	小野雄二	ハンブティ—ダンブティ—
岡本鍬二	虹	深作洋子	僕たちの夢
堀信二	W A L K I N G	青木三四郎	M E M O R Y
栗剛	HUMAN—喜・怒・哀・楽	明地信之	t r a n s i e n t
南部治夫	時の流れに……	大木民郎	WORKING BIRD
佐野文夫	小さな仲間	堀豊之	姉妹
梶本良衛	ワ・タ・シ	中岡慎太郎	W a n d e r l a n d
長谷川大治郎	立つ形体(優)	佐々木実	W O M E N

作家名	作品名
会田富二男	風の径
別府博文	風の中の
小澤悟悟	組み合わせ『あー！お』
北郷文男	p e r s o n
西村文男	読書を
石橋村文	時を謳う
岡村正昭	カタツムリ
船田正廣	悠久の化
中原野	ポニーといるリトル・ジョー
富長敦也	漁り人
牧田裕次	ブランコの女
宮内聰雄	十月の風
松本間公次	風母神
播原北悠	大家の族
	C O N T I N E N T

《参考展示》

第1回現代日本具象彫刻展 招待作家

大須賀力	もたれる
神野義衛	呻
北村西望	二人の天女
佐藤忠良	ラッブ帽

作家名	作品名
長谷川昂	釈迦
舟越保武	婦人
山本正道	ヴァージニア

第2回現代日本具象彫刻展 招待作家

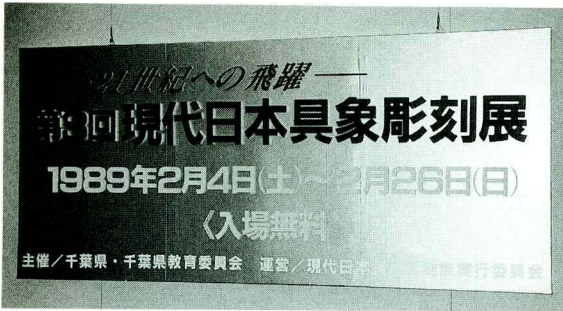
柳原義達	風の中の
鈴木実存	存在する

第1回現代日本具象彫刻展 大賞受賞作家

梅原正夫	なかよ
酒井良時	を刻む
鈴木徹	宗
高田大治	リラック
三木俊治	北国からの
六崎敏光	香

第2回現代具象彫刻展 大賞受賞作家

浦野八重子	生きるということ
後藤良二	『ザ・フライヤー』模型
佐々木実	I Love You
関正司	IRON LADY
中嶋登茂美	ひとりぼっちのかくれんぼ
山崎猛	木馬の詩



大賞 市村緑郎「森の詩」



招待作家 淀井敏夫「渚」



笹岡 了 一 展

会 期 平成元年 2月14日(火)～3月12日(日)
22日間
展示点数 117点
入場者数 10,156人

笹岡了一(明治40～昭和62)は、新潟県新津市生まれ、昭和6年第12回帝展に初入選したのを機に上京、安宅安五郎に師事した。

戦前は白日展、新文展に、戦後は主として日展、光風会展に作品を発表、昭和53年の第10回日展において内閣総理大臣賞を受賞した。

日展参与、光風会常任理事のほか、本県にあっては、戦後流山市にアトリエを設け制作の拠点とし、千葉県美術会会長をつとめ、千葉県教育功労者(芸術文化)、千葉県文化功労者として表彰された。

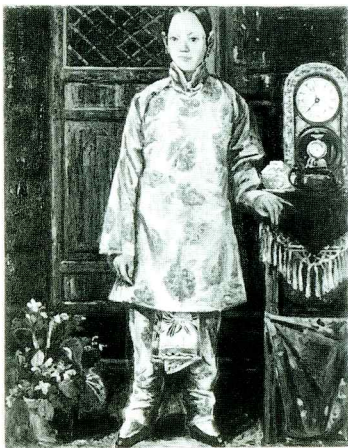
本展覧会では、大胆な筆致と豊かな色彩、確かな画面構成によるダイナミックな独自の具象世界を創出した笹岡了一の代表作及びデッサン等を一堂に展覧し、その画業を回顧し、顕彰した。



出 品 目 録

作 品 名	制作年	作 品 名	制作年
油 彩		郷 寧 (山 西)	1960
慶 州 風 景	1930	放 蕩 息 子 の 帰 宅	1961
太 夫 濱 の 風 景	1931	放 蕩 息 子 の 帰 宅	1962
春 庭	1933頃	枯 れ た 花	1962
鶴 原 の 夏	1937	神 々 の 饗 宴	1963
雪 の 朝	1942	田園が工場化する(古き流山)	1964
水(晋南戦線所見)	1942	蒼き狼の子(或る壁画のためのイメージ)	1964
梅の村(武州越生の春)	1943	地 層	1965
纏 <small>おごせ</small> 足	1946	王 様 の 出 発	1966
洪水(江戸川)	1947	高 地 風 景	1970
松 子 像	1947	霽 れ ゆ く 仲 木	1971
松 子 像	1947頃	ジ ャ ガ タ ラ 文	1972
初 夏 磐 梯	1947	孟 母 の 家	1973
流 山 雪 景	1947	家 郷	1974
畫 室 の 絢 <small>あや</small> 子	1947	八 番 町 の ラ ー メ ン 店	1975
於 東 葛 飾 <small>あや</small> 流 山	1947	天 使 と ヤ コ ブ の 闘 い	1975
松 子 像	1948	旅 愁	1976
無 題	1951	東 方 賢 者 の 礼 拜	1977
凍 土	1953	夏 の 日 (マ カ オ)	1977
隊 商	1953	カンボ・デ・クラブターナの黒い家	1977
隊 商 (キ ャ ラ バ ン)	1953	ウ ィ リ ア ム 物 語	1978
グ リ フ ォ ン と 闘 ふ 男	1955	イ リ エ ゼ ル と レ ベ ッ カ	1980
黄 土	1955	ジ ブ シ ー の 芝 居 小 屋	1980
外 海 府	1960	イ リ エ ゼ ル と レ ベ ッ カ	1981
放 蕩 息 子 の 帰 宅	1960	ア ブ ラ ハ ム の 話	1982

作 品 名	制作年
山西	1984
河口	1985
平陸(於山西省平陸)	1986
屏風岩(銚子)	1986
黒竜関の春(於山西省)	1987
佛国寺にて(未完・絶筆)	1987
デッサン	
少女座像	1923
習作	1931
少年の顔	1931
三人の少女(下絵)	1931
香山寺を望む	1939頃
顔の習作	1941頃
マニラ女性	1943
ルネタ公園(於マニラ)	1943
コレヒドール島を望む	1943
観測手(砲隊鏡)(於マニラ)	1943
観砲連絡通信兵(於マニラ)	1943
靴磨く少年(於マニラ)	1943
スペイン風の踊り(於マニラ)	1943
フランシスコ・サンタ・マリア家の妹	1943
於流山	1950
梅の庭	1950
昭和25年秋	1950
マカオ・セントポール・チャーチ	1975
マカオの休日	1975
マカオ海岸通り	1975
マカオ	1975
マカオ・ヴァスコ・ダ・ガマ公園	1975
マカオ海岸通り	1975
マカオ・ヴァスコ・ダ・ガマ公園	1975
夏の日(マカオ)	1975
清張通史—文字のない世紀より	
・238回 応神天皇(3)	1976
・292回 時代の謎(6)	1976
・332回 密儀(6)	1976
・375回 青銅の迷路(8)	1977



笹岡了一「纏足」

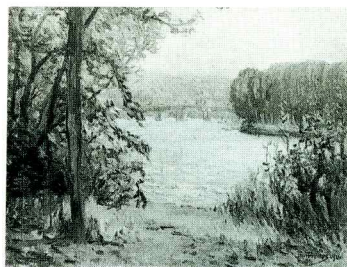
作 品 名	制作年
・390回 カネとタイコ(12)	1977
・412回 まとめと私説(4)	1977
・414回 まとめと私説(6)	1977
・420回 まとめと私説(12)	1977
カジス(南スペイン)	1977
スペインの少女	1978
オビエド(北スペイン)	1978
佛国寺にて	1979
佛国寺境内	1979
白浜燈台於南海荘	1983
水月寺	1984
参考資料	
山西の小スケッチ24枚	1937~39
松子	1940
挿絵(星章原画)	1941
父(デスマスク)	1941
安太郎	
松子	1941頃
松子	1943
松子	1952
松子	1955
母照子像	1959
由美子	1975
画帖	
1. 路草画帖	1941~42
2. 佐渡・両津・相川, 相川・小木港	1956~58
3. 昇仙峡・房州銚子	1950~52
4. 宝川温泉・佐渡	1962頃
スケッチブック	
1. マニラホテルにて	1943
2. マニラよりコレヒドールを望む	1943
3. 日本よりマニラへ向う機上にて	1943
4. "	1943
5. 流山にて	1950頃
6. 谷津にて	1953~56
7. 新潟にて	1958頃
8. スペインにて	1978



第12回 千葉県移動美術館

会場 ①館山市コミュニティセンター
 ②袖ヶ浦町根形公民館
 会期 ①昭和63年11月17日(木)～11月30日(水)
 ②昭和63年12月3日(土)～12月14日(水)
 展示点数 ①49点 ②49点
 入場者数 ①2,134人 ②993人

館所蔵作品を中心に県展受賞作品の一部を加えて移動展覧を行ない、美術品が身近に鑑賞できる機会を提供した。



1988年11月17日(木)～11月30日(水) 1988年12月3日(土)～12月14日(水)
 館山市コミュニティセンター 袖ヶ浦町根形公民館

第12回
 千葉県移動美術館

出品目録

作家名	作品名	作家名	作品名
●館収蔵品			
日本画			
富取風堂	朝秋	光趣	
島多訥郎			
立石春美	狗		
秋葉長生	西の海	京女	
渡辺巴人	総の積	迦野	
岩崎敏男	原		
洋画			
浅井忠	婦人	像	
大下藤次郎	紫陽花	ル	
都鳥英喜	里郊外	川	
石井柏亭	安シ	女	
霜鳥周次	花と	蒲犬	
小山重太郎	女熱	近	
安井曾太郎	竹窓	読書	
原勝郎	モシ	ル	
鶴田吾郎	谷川	岳	
石橋武治	夜の富	士	
鱸利彦	房州伊	豫	
椿貞雄	鴨	凶	
不破章	二花	女	
小堀進	花と	海	
版画			
浜口陽三	ういきよ	う	
星襄一	大影	樹	
深沢幸雄	(メヒコ)	A	
池田満寿夫	Something	I	
彫刻			
大須賀力	もたれ	る	
佐藤忠良	ラッ	帽	
山崎英五	地を這うもの	ども	Ⅷ
工芸			
香取秀真	笑獅子	香炉	
津田信夫	鳳象	薫磁	瓶
宮之原謙	彩嵌	耳花	瓶
土肥刀泉	釉銀玉	錯香	瓶
香取正彦	臘蝶	文銅	箱
大須賀山逸	木装	瓶(六文)	錢
秋山正年	信本	瑞光	雀
藤田喬平	飾	朱	
書			
浅見喜舟	檀待	君	
大石隆子	方	昌	
鈴木方鶴	万		
作家名	作品名		
●第40回県展出品			
山崎久美子	遙	(日本画・県展賞)	
佐久川園子	シャボン玉まであがれ	(洋画・県展賞)	
堀内 有子	風天女一はごろも	(彫刻・県展賞)	
藤田 潤	彩	(工芸・県展賞)	
飛田 冲曠	勺	(書・県展賞)	
平野 博次	転	(工芸・文部大臣奨励賞)	

普及事業

「美術講演会」は特別展に併せ年2回、「美術を語る会」は実技関係を中心に10回開催した。

経験者を対象とした美術館講座7種13講座、延日数116日、初心者を対象とした美術館友の会講座10種13講座、延日数65日開催した。

図書は年間181冊収集し、現在3,194冊を収蔵し、情報資料室に於いて開架している。

博物館実習は14大学37名を受け入れた。

刊行物は展覧会に合わせた図録、チラシ、ポスター、目録、更に館報4回、房総の美術史12回、年報、事業案内などを刊行した。

館自主企画展のほか、県芸術祭、団体展への協力を行った。

美術講演会

(1) デュフィ・人と芸術

— 色彩とイメージの華やぎ —

講師 千足 伸行氏

期日 昭和63年6月4日(土)

参加者 127人

彼の生まれは19世紀末。フランスでは印象派、後期印象派の作家達が円熟期から晩年を迎えたころであった。仏の北、ルーブルという港町に生まれ、暮らしは楽ではなかったが家族が皆、楽器をたしなみ、家族演奏会を聞く様な心の豊かな家庭に育った。独学で勉強を重ねた彼は、文学者や詩人の友人が多く、控えめな人柄だった。

デュフィはピカソの様に病んでいる人や、貧しい人を描かない。仕事から解放された休日の心晴れやかなウキウキした世界を描いた。売れるから、人に気に入りたいからというより彼独自の本質的なものと思う。そういう意味で彼の芸術はマチスに近い。

マチスは「自分の理想とする芸術は、人を感動させたり重苦しい雰囲気にしたたり、深く考えこませたりするのでなく、ちょうど肉体労働者が一日働いて家に帰り、疲れた体を安楽椅子に横たえると何ともいえない幸福感を感じる。そのような芸術を自分は生み出したい」と語っている。

彼の油絵は、一見水彩画のように見え、非常に軽快。音楽は、形がなくて空気の中を伝わっていく軽やかな芸術であるが、デュフィの芸術にもあてはまるのでは。日本の古典的な美の感じに「軽み、がある。芭蕉のわび、さびとかユーモアに通じるもので、あまり深く沈み込まない感じ。

彼のデッサンは、線が予想外の展開をしたりして即興的なおもしろさがある。また、色が形に従わないところも離れてみると交響乐的味わいがある。

しかし彼の人生は、彼の芸術ほど幸せではなかった。経済的にも、家庭的にも恵まれず、40~50才にはリユーマチ等の神経痛にみまわれ、絵筆をとれないこともあった。

そのなかでデュフィの芸術は最後まで暗くなることはなかった。フランスにはブーシェ、ワトー、ルノアール、ボナールなど「生きる喜び」を描き表した画家達が伝統的に続いているが、デュフィも彼らの流れをくむ最後の画家だったのではないか。

他に、デュフィは生涯、海を見ながら暮らしており、「海、が作品に表現されていること。デザイナーのポワレとの出会いと、その先見的デザインセンス。アポリネールの本の挿絵を手がけていることや、作品「ラビアンローズ」の事など、デュフィを支えた人々や環境そして彼自身の芸術観、生き方について、改めて好感や親しみをもてる内容であった。



(2) 石井柏亭と近代美術

講師 茨城県近代美術館長 匠 秀夫氏

期日 昭和63年9月17日(土)

参加者 83人

大変な力を入れた構成です。柏亭自身の仕事はこれだけとまとめたのは最近にない。柏亭の場合三代にわたっている。祖父鷺湖父鼎湖の作品も並び、弟の鶴三さん、彫刻が主といいながら絵にも業績を残した。第2の部分に関係のある美術家たちの作品も多く並んでいる。

柏亭は明治の中ごろ生まれ、大正、昭和の戦後まで長い期間生存しました。70年位絵に関わっていたということになります。この人の関わった仕事は単に絵に止まらない。著書も多くある。文

化学院で教える仕事もあった。近代美術全般にわたって大きな仕事をしてきた。不幸にして柏亭さんから聞けなかったが、普通の人の3倍近くしているのではないか(仕事を)。画家だからひたすら絵を描いたのは当然だが、柏亭の場合はそれ以外の仕事、それが大変であった。巨人的な人です。

柏亭の唯一の先生が浅井忠。ついで先生がまた明治の時代には最高の人です。

諸条件が作用し、多面的才能が開くように、一家を背負い生半可な勉強ではなかったようです。

明治40年通称文展にも賞をとるようになってから、新進作家の名を得ていたことになります。文展にあきらない画家が二科会をつくる、柏亭もその中心人物の1人です。文部省のやり方に対し熱をあげるのはやりやすいが運営維持は大変。これをしっかり固めたのは柏亭でありました。

明治も終り昭和となると、個性的な人は二科出身が多い。代表する芸術院会員という、二科の人たちを出さなければならなくなる。だが二科では政府の会に出す者はわが会は受け付けないとなっている。芸術院会員に推された柏亭は、自分達で作った会則に反する。受けるか、二科会をやめるかです。その結果柏亭は二科会から身を引きました。そして一水会を運営し、最後まで関わりました。

二科の結成、次の改組、いずれも柏亭が主でありました。では絵の方をスライドで通じてみてみましょう。

美術を語る会

第1回 昭和63年5月28日(土)

話題提供者 堀 豊之氏(彫刻家)

テーマ 私と彫刻

参加者 32人

“文化、には、真(科学・学問)・善(宗教・道徳)・美(芸術)・用(生活全般を包括)の4つの領域がある。

その中で“美、について考えると、これを平面(二次元)で表現するものとして、絵画や書などがあるが、このうち書は“用、を要素とする「文字性」を基本としている。

立体(三次元)でも同様で、彫刻は“美、だけでよいが、建築や工芸は“美、のほか、“用(実用)、“という要素を必要としている。

三次元に時間の経過が加わったものに、四次元芸術としての“音楽、や“文芸、がある。

“舞踊、は、音楽に舞台装置が加わる複合芸術と云えるし、“演芸、やテレビ(映像)も総合的な芸術と云える。

芸術の基礎になるのは“感覚、である。感覚には、視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚・インスピレーション(第六感)等がある。人間は視覚と聴覚以外はあまり発達しなかった。

彫刻はやはり“視覚、に属す芸術と思うが、“彫塑、になると、削る(マイナス)という働きに、付ける(プラス)という働きが加わり、求心的なものに遠心的なもの加わる。

私の生家(富山)では欄間を作っていた。欄間は“削る、けれど彫刻ではない。彫刻は“かたまり、“(マッス)と“動勢、“(ムーブマン)とから成り立つ。看板や欄間にはマッスの強さや密度がない。

人は、人さし指で方向を示す(ムーブマン)ことを本能的に知っている。トウダンスやパントマイムは、やはりムーブメント(動勢)を持っている。オリンピ

ックの体操種目やダイビング等もムーブメントで採点するのではないか。

以上のようなことを、スライドでミロのヴィーナスやロダン・プーセル・マイヨールらの作品を紹介しながら、彫刻の持つ生命感、動勢、量感などの魅力について語り、改めて考えさせられた。

講演のあと、動勢を制作上どう注意したらよいか、レリーフは彫刻ではないか、好きな仏像は等、質問も多くでて、盛況のうちに興味深い語る会が終了した。

第2回 昭和63年6月18日(土)

話題提供者 根岸茂行氏(洋画家)

テーマ デュフィ

—知性と感性のあざやかな結合—

参加者 52人

デュフィの人気の所以は何か。1.色そのもののリズム感、2.線と色彩とを兼ねあわせたリズムの様なもの。3.非常に高い色彩の純度等ではないか。

全体を通じているものは、親しみやすい楽天性。ピカソやクレー等にはない。

彼の制作がちょうど油がのった頃、第2次大戦があった。他の作家たちはその大戦の重みを作品の上に鋭く鮮やかに反映したが、彼にはそういう所が感じられない。彼は、その時、一体どんな生活をし、大戦をどう考えていたのか。

私が彼から学んだのは、絵を描く人間が最終的に行きつく所は、権威や伝統にとらわれず、いかにして自分の世界を獲得することができるか。ということ。

技法については、純度の高い色彩を出すため、地塗りやキャンバス地、溶剤などを研究していたらしいことやスケッチも簡単に描かれているようで、よく計算されていること、また彼のサインの話などについて話者が画家ならではの興味深い話にも触れ、彼の作品の持つ即興性は、意識的に出されたものではないかと思

う。

知性というのは画面を構成していく力、感性とは色彩を主体とした感受性の問題、一方で感性を出しながら、他方では知性で抑えるところに1つの表現が生じる。彼の絵も感情だけのものなら、このように気楽な気持ちで見られないだろう。

普通人だとモチーフに逆にひきずられるところを、彼はモチーフを自分の側に消化してしまう。彼にとっては光に満ちた場所をどうとらえるかが大きな課題であった。山・海・雲などを記号化してしまうのも特徴的である。

さらにスライドを見ながらデュフィとターナーの「光、の違いや、デュフィとスーチンの「表現、の相違等にも話が及んだ。

第3回 昭和63年7月9日(土)

話題提供者 齊藤 惇氏 (日本画家)

テーマ 「院展の作家たち」

参加者 33人

日本画は岩えのぐで描く。一本のにかわが日本画をささえている。にかわは動物の皮からつくられ、艶がなく淡泊で日本人に適している。ある時期は洋画に埋没し一時は危くなったこともある。そのころ油絵に対抗し、重厚なものが多かったが現在はそうでもなくなっている。

胡粉、墨、金箔、銀箔、とりの子、麻紙、どうき、みょうばん等の材料や技法について説明し、また日本画は日本人がわかればよいというものではなく国際社会において世界の芸術としてなり立つものでなければならぬと日本画の価値や歴史にもふれた後「院展の作家たち」と題してビデオを鑑賞し、解説してくれた。また、自分の取材旅行等の話をまじえて制作の楽しさきびしさを語られた。最後に氏は、自然の花や置き物で部屋を飾るばかりではなく、色紙に花を描き、石を彫り、印を作って落款をして眺めるのもよいのではないか、自然の中からモチーフを得て、生活の中にさり気なく自分の絵を飾る……そうしたてらいのない創作活動を奨励し、創作活動の喜びと方向性を氏特有のやさしい静かな口調で提言してくれた。

第4回 昭和63年8月27日(土)

話題提供者 鈴木治平氏 (金工家)

テーマ わたしと金工

参加者 29人

私は絵を描こうと思った。美校(現東京芸術大学)に行ったら金工のなかの鍛金を目の前に見てほんとに驚いた。金属は堅いものだ、の印象しかないが金鍍と当金で叩いてゆくと形になる。全く驚いてしまった。そこで、やってみようと思いついてしまった。

当時は今のように大規模な研究室ではなかった。戦

後は何もない時から、除々に変化してきたので、金工の歴史をコンパクトにとらえられた。技術的には原始的な技術を身につけてきた。今は電気等も豊富です。私の場合は幸だった。

私は鍛金です。何しろ叩いて作る。材料を叩き、ヤキナマシ→整形→ヤキナマシ→整形で形を作ってゆく。熱加工も基本的には同じ。では、「お前は何かを作っているのか」。自分が作りたい作品、金属の板金を使って、鑄金、鍛造の技法も入るが、独断と偏見ではあるが、あまりそのものより空間と空間にあるものがある程度頭の中に意識して、例えば高気圧、低気圧間の不連続線、内空間と外空間があって、その影響下に虚像とも違うが、間にあるもの、何か形にしてゆく。抽象であれ、具象であれ面倒というのがそういうものを——。玄関の衝立、空間を切っている。私の場合は衝立はどうでもよいが、ふたつの空間に挟まれた自分内の実態、自分自身が自由に取扱えるものでないかも知れないが要するにそれだけではできない、その中に実在みたいなものを——。

金工の場合は鉛筆の持ち方から教えていかなければならない。金鍍を下すとフツと圧力みたいなものを感じず。作品そのものについて全体、バランス、直接的な腕力はいらぬ。そういうものを感じずになると仕事が面白くなる。

「お前、どういう事を指導しているのか」ということでは、学校で一度も金属をやったことがない人に見せるものを御覧に入れます。(持参ビデオ紹介)。

第5回 昭和63年9月3日(土)

話題提供者 天野三郎氏 (洋画家)

テーマ 作画のはなし —「構想を練る」から作画まで—

参加者 32人

絵の傾向はいろいろある。正統派的絵画、個性的絵画。正確にものを写すというのは日本画、油絵の方は正確に書きなくとも面白いのではないかと描いていると日本画むきだ、洋画むきだとか。僕がやっているのは、正確さとか、能力をもっているとか、ハミ出す大きさを、発見の豊かさ、クセ、クセもひとつの絵に。そういうような自分のクセとか、まずさ、へたさも絵のうちではないか。

感動、閃きに始まって——構想——構成、三原則としておきましょうか。次に魅力ある絵、面白い絵、へたのよさもわかってくるようになったらすばらしい。

大事なものは制作と習作。習作は的確な表現力を身につけるため。制作は、勉強したものを自分の構想にして自分の分の世界を築く、それが作品の強さです。

今日は画学生を相手にしているわけではありません。未熟であっても描きたいと思ったら考えていることがいつか閃く。考える訓練をしてメモしておく。現実離

れをした絵、これが絵でこれが絵じゃないというものはない。習作はものを追求する。制作は自分の心の表現だから自由になさい。自分なりに調和すればよい。コツなどは感動のかたまりです。ヘタな絵を描けと勧められているようだが(哄笑)、自分に厳しくなければならぬ。自分に厳しさを怠ったらいけません。

第6回 昭和63年9月24日(土)

話題提供者 田坂 乾氏(洋画家)

テーマ 石井柏亭を語る

参加者 125人

柏亭が本県に関係するのは、祖父鷺湖が金杉村(現船橋市)の産で日本画を描いていました。文晁、峯山の影響もみえる。鷺湖は鈴木ですが、息子の鼎湖は遠縁に当る石井姓です。鼎湖は御徒町に出て印刷局に勤め柏亭が生まれます。柏亭は子供の頃から描いていました。鼎湖も写していたが、自分の目、筆で描いて訓練していた。絵は教えてできるものではありません。

印刷局にいた柏亭は友達とグループを作り仕事をしていた。油絵も始めています。絵の具が日本に(当時の)あったのが不思議です。「草上の小憩」他1点は兄弟たちをもとにしています。詩、和歌にも興味をもっていました。交友関係は今より多かったです。今は文学者と絵画きが分れてしまった。

「方寸」という雑誌を3年ばかり続けたが、凝った雑誌で挿絵もしっかりしています。そうした人でした。舶来はいかん、外国カブレはいやだ。アカデミックはつまらない。実際感動したものでなければイカンを続けていました。

ヨーロッパへも行ってきます。浅井の絵も頭にあっただけでしょうか。当時は29~30才です。戦後は、母を連れ、約束が果せたと云っていました。

柏亭は文を書くことはマメでした。汽車の中でも書く。画集も作っている。60冊ですから、画家ではそうはいません。

さらに乾氏のスライドを通しての話があった。

第7回 昭和63年11月12日(土)

話題提供者 深沢幸雄氏(版画家)

テーマ 版画のはなし~多くの工夫した電動ベルソー~

参加者 21人

銅版画の技法の1つであるメゾチントについて。銅版画には、手工的な技法と薬品による技法があるが、メゾチントは手工的。身近なところでは、お札。線が盛り上がっているところは、札の紙がめりこんだから。銅版画は凹版。木版は凸版。石版画は平版。石版画は昔は大理石などを使ってたが、今は亜鉛版等を用いる。石版画は、水と油の性格の違いを利用し、油の部分にインクがつく。版画は大体この三つに分かれる。

池田満寿夫氏は、ドライポイントを行っている。この技法だとダイナミックな表現ができる。メゾチントは、中間の調子が美しくでる。メゾチントは300年位前に、ドイツの兵隊ジーゲンという人が始めたという。その後、ロンドンに渡り、18世紀に大流行した。この頃のロンドンのメゾチントは、どうしてこの様になったのかと思うほど、煙のように柔かく細かい。ベルソーは、仏語で「ゆりかご、英語でロッカーの意味。揺すっているうちに刻みながら前に進んでいくしくみで銅版の表面をギザギザにする。これを削って磨いて版を作る。70×36センチ位の銅版を全面ギザギザにするには、1日10時間で20日位かかる。

ロンドンでは18世紀頃、写真がないので、自分の肖像とか画をメゾチントで作って配布した。写真が発明されると、肖像画などは作る必要がなくなるので、メゾチントも姿を消した。それまでメゾチントの版はどうやって作っていたのか。お巡りさん達が夜警の時にアルバイトでやっていた。その中で頭のいい人が一人いて、ベルソーに棒をつけ、棒を揺すって筋をつけた。そこで氏は、これを電動にした。

この後、ビデオで、氏の作成した、メゾチント版作成機、電動ベルソー「チンタラー一世」を見る。どうして機械好きのドイツ人が作らなかったのか。今では、もう世界中で動いているが、氏の発明したもの。浜口陽三氏もこの「チンタラー一世」に会うため、氏のアトリエに出向かれたという。非常によく計算されて作られた機械ながら、顔があり、帽子をかぶり、タイを巻いて、手袋をしている姿は、とても愛らしかった。

第8回 平成元年1月21日(土)

話題提供者 千代倉桜舟氏(書家)

テーマ 書・こんなことを知りたい

参加者 25人

一貫して書の世界を追い続けてきた氏の話は、書の世界を超えて、生き方、学び方に対するアドバイスとして説得力を持っていた。

どの世界にも三つの構えが必要。一つは「心構え」、二つめは「気構え」、三つめは「腹構え、だ」という。この三つがあれば、どの世界でも成功する。

積み重ねの時期(初学)には、よいと思ったものを、とことん真似てみる。芸術の世界は、まね事10~20年。その中から何か新しい発見がある。模倣時代は長く人間はすぐ飽きる、少しうまくなればうぬぼれる。独創など、なかなかやれるものではない。

これにかけては誰にも負けないぞ、という位一生懸命にやっているとなんでもそれに見えてくる。そうなるとやみつきになって少しでも努力しようということになる。

ミレーの絵を見るにしても、その背景や思想を調べ、自問自答しながら鑑賞するとそれが生きてきて、自分

に語りかけてくる。そこまでいかなければならない、という。

氏は戦争で満州で捕虜になった。その戦争体験と、少年時代に培った反骨精神、独身時代に励んだひたむきさ、それらを土台として、もう一度謙虚に学ぶ事が大事だと知った。判らないことはどんな立派な人も恐れずに聞いてみる。たくさん見る、読む、体験すること。熱意とプライドを持つこと。ひと口に筆の握りの位置は、といわれても、対象によって違う。かく時の力の問題、位置の問題、そしてもう1つ。体で球を投げる。体で相撲をとることが大切。書も同じ。姿勢（重心の置き方）など重要。

この頃は、書学の本が多いが、もっと日本の民族の伝統としての美を世界に理解してもらい、更に発展していくような美学を上る学校ではして欲しい。米国では高校でも美学や東洋史の授業があるので、書の流れも知っている。書学だけに明け暮れているのは書道の美は発展しない。

まず執筆姿勢、それから古典、そしてどういう筆でどんな考え方で書いているのか。いつの時代に、どんな文章表現をしていたかということを知るのが大切。

第9回 平成元年2月4日(土)

話題提供者 後藤良二氏(第3回現代日本具象彫刻展大賞受賞者)

テーマ 私の制作について

参加者 27人

大賞受賞者の1人を話題提供者に迎えての語る会であった。

ダイヤモンドの分子構造さながらの人体群が、空間を巻き込むように、うずまき上昇していく作品を、展示場で作者自らの作品の前で語り合うことから本日の語る会は始った。

人間の有機的な明確な動き、力学的に反した欲求、両者の共存の構成は、或る日道端の金網フェンスを見たときヒントを掴み、基本的な構成は科学雑誌から得たという。さらに炭素の繋がり、作者によって人間の手足4本に置きかえられた。

手足によって繋がれた人間群は、その間隙からの空間が作品の背景となる。この作品は、当然ながら環境が大きな影響を及ぼしてくる。作品は環境が変れば変わるものである、「空をバック」にしたらよいと云う作者。作者自身の口から出るこの「環境」は、作者を、作品を前にすると特に説得力がある。構成上はどこまでも広がる可能性を持つ作品であるが力学的問題を生じる。宇宙空間を背景として無限に遠い作品である。

全体としては構成的な作品であるが、一体一体は具象、これからの彫刻で、具象で抽象、わかりよくて広がり動きのあるものに、自ら挑戦している。

作者の言葉に、出席者の発言を誘い出している語り合

いのうちに終了した。

第10回 平成元年3月4日(土)

話題提供者 篠崎輝夫氏(洋画家)

テーマ 笹岡一展に関して

参加者 204人

笹岡先生は、新潟出身だが流山市に移住し作品の大半は流山市で制作した。

氏は昭和30年から32年間、師事した。話は師弟関係を結ぶまでのエピソードに始まり、笹岡絵画研究所での現在の友人達との出会いそして先生との懐しい思い出へと続いた。

先生は、新潟の新津生まれで故郷の話が好きだった。雪国の食事と血圧の話や小学校当時から絵が好きで、中学で画家を志したが、親の反対で教員資格をとった話など。白日会の初入選を皮切りに、白日会賞、帝展初入選と続き、白日会会友となったのをきっかけに上京。白日会を通して知り合った夫人との、東京での質屋通いの生活は貧しいが楽しかったという。

研究所での先生や友人達との愉快的思い出や、当時、銀座にあった柳亮氏のジャンという集団に先生と一緒に通った時のエピソードなど楽しい話が続いた。

とりわけ、ジャンでの様々な画家達との接触、氏が自分で一番気に入っている作品の部分の部分を柳さんに直されてしまう話、帰りにアメ横で先生と飲みながら、またそこで絵の話や聞かされた話など、師弟の充実していた青春時代が目に浮かぶようだった。

先生は兵隊に行った時、絵の道具を持っていかなかったのに奥さん宛に現地から水彩画を送ったという。ソ連に抑留中、仲間と38度線を突破して、帰国するまでの話はよくされていた。香月泰男も同じ様な経験を持つが、皆、強靱な精神の持ち主であり、この展覧会のガラスケース内のデッサンも先生が戦争中に送った下図で、帰国されてから仕上げるつもりであったという。従軍画家としてマニラ方面へ行かれたこともあった。

先生の作品は決して単なる写生ではなく、心象風景で、どんな大作も小さなスケッチから描かれており、現場では仕上げない。作品の多くはギリシャ神話や古代エジプトの話、旧約聖書などからヒントを得ている。先生は、「私はキリスト教信者ではないが、その崇高さ、純朴さは判る」といった。同じ様なテーマで、キリコやドラクロワ、シャガール等も描いているので、スライドでそれらを比較したり、様々なテーマにとりくんだ先生の作品について興味深い話を聞く。

先生の色彩の特徴や代表作について等、質問があり、故人の人徳を思わせる語る会となった。

実 技 講 座

(1) 日本画講座

期 日 昭和63年 6月21日(火)・22日(水)・23日(木)・25日(土)・26日(日)・
28日(火)・29日(水)・7月1日(金)・2日(土)・3日(日)
(10日間／うち講師指導日数7日間)

講 師 関 主税

受講者数 19人

内 容 経験者を対象として、花・くだもの・人物等のモチーフにより制作した。同時にドーサの作り方・絵の具・にかわ・筆・紙等の材料・用具の取り扱い方など基礎的な学習の後、彩色の技法について学習した。



(2) 洋画講座

期 日 第1期 昭和63年 7月16日(土)・17日(日)・19日(火)・20日(水)・22日(金)・23日(土)・24日(日)・26日(火)・27日(水)・
28日(木)・29日(金)・30日(土)
第2期 昭和63年 8月23日(火)・24日(水)・25日(木)・26日(金)・30日(火)・31日(水)・9月1日(木)・2日(金)・
6日(火)・7日(水)・8日(木)・9日(金)
第3期 昭和63年11月8日(火)・9日(水)・10日(木)・11日(金)・16日(水)・17日(木)・18日(金)・19日(土)・22日(火)・
23日(水)・24日(木)・25日(金)
(各12日間／うち講師指導日数は各6日間)

講 師 第1期 戸田 健夫

第2期 伊牟田経正

第3期 小林 数

受講者数 第1期 28人

第2期 30人

第3期 30人

内 容 経験者を対象として、第1期と第2期は、ヌード・コスチューム・静物を、第3期は、静物・風景をモチーフとして、デッサン、構図、彩色などをはじめ、より幅広い表現について学習した。



(3) デッサン講座

期 日 第1期 昭和63年 5月31日(火)・6月1日(水)・2日(木)・3日(金)・7日(火)・8日(水)・9日(木)・10日(金)
第2期 平成元年 1月12日(木)・13日(金)・18日(水)・19日(木)・20日(金)・25日(水)・26日(木)・27日(金)
(各8日間／受講者の自主研修講座)

受講者数 第1期 20人

第2期 28人

内 容 一般を対象として、石膏・コスチュームの制作の中で、形のとり方、明暗、立体感など基礎的な学習をし、コスチュームデッサンは淡彩を行った。

(4) 版画講座

期 日 昭和63年 7月19日(火)・20日(水)・21日(木)・22日(金)・27日(水)・28日(木)・29日(金)・8月2日(火)・3日(水)・
4日(木)・9日(火)・10日(水)
(12日間／うち講師指導日数7日間)

講 師 増田 陽一

受講者数 12人

内 容 経験者を対象として、銅板・亜鉛板を素材に、凹版画の制作を通して材料や用具の扱い方、エッチングやアクアチントなどの各技法、更に刷りの技法について学習した。

(5) 彫刻講座

期 日 昭和63年 5月12日(木)・14日(土)・17日(火)・19日(木)・20日(金)・21日(土)・24日(火)・25日(水)・26日(木)・27日(金)
(10日間／うち講師指導日数7日間)

講 師 中島 幹夫

受講者数 14人

内 容 経験者を対象として、石を素材に、人物・野菜・石仏など立体の表現方法、更に用具の取り扱い方を学習した。

(6) 陶芸講座

期 日 第1期 昭和63年 5月10日(火)・11日(水)・31日(火)・6月14日(火)・16日(木)・7月5日(火)・12日(火)・14日(木)
26日(火)・8月5日(金)

第2期 昭和63年10月25日(火)・27日(木)・11月11日(金)・16日(水)・18日(金)・12月13日(火)・14日(水)・16日(金)
平成元年1月12日(木)・27日(火)
(各10日間／うち講師指導日数は各6日間)

講 師 第1期 横山光ノ介

第2期 上瀧 勝治

受講者数 第1期 34人

第2期 39人

内 容 経験者を対象として、第1期は信楽土を素材にかき落とし、象嵌など、第2期は信楽土・半磁器土を素材に、上絵付などをはじめ、土、ロクロ、窯詰め、施釉、焼成等について学習した。

(7) 書芸講座

期 日 第1期 昭和63年 7月5日(火)・6日(水)・7日(木)・8日(金)

第2期 昭和63年 9月27日(火)・28日(水)・29日(木)・20日(金)

第3期 昭和63年12月1日(木)・2日(金)・8日(木)・9日(金)

(各4日間／うち講師指導日数は各3日間)

講 師 第1期 千代倉桜舟

第2期 高木 東扇

第3期 浅見 錦龍

受講者数 第1期 14人

第2期 20人

第3期 19人

内 容 経験者を対象として、第1期は近代詩文書、第2期はかな、第3期は漢字を中心に様々な表現について学習した。



版画講座



陶芸講座

購 入 図 書

	書 名	刊行年	編著者名	発 行 所
美術総記	ループルとバリの美術第2巻	1987		小 学 館
	” 第6巻	1986		”
	” 第7巻	1988		”
	” 第8巻	1988		”
	絵 画 鑑 識 事 典	1988	クヌート・ニコラウス	美 術 出 版 社
	下店静一著作集第9巻	1988	下 店 静 一	講 談 社
	日本現代美術彫刻	1985		形 象 社
	” 絵画 I	1986		”
	” 絵画 II	1985		”
	” 絵画 III	1985		”
	” 工 芸	1986		”
	近代日本の美術と文学	1979	匠 秀 夫	木 耳 社
	光 芒 の 1920 年 代	1983	朝日ジャーナル編集部	朝 日 新 聞 社
	画 廊 の し ご と	1988	佐 谷 和 彦	美 術 出 版 社
	西洋美術解説事典	1988	ジェイムズ・ホール	河 出 書 房 新 社
	言葉と言葉ならざるもの	1970	針 生 一 郎	三 一 書 房
	針 生 一 郎 評 論 4	1970	”	田 畑 書 店
	” 5	1970	”	”
	” 6	1970	”	”
	古 文 化 財 の 科 学	1987	山 崎 一 雄	思 文 閣 出 版
	講 座 美 学 1	1984	今 道 友 信	東 京 大 学 出 版 会
	” 2	1984	”	”
	” 3	1984	”	”
	” 4	1984	”	”
	” 5	1985	”	”
	日本近代美術論争史	1981	中 村 義 一	求 龍 堂
	続日本近代美術論争史	1982	”	”
	日 展	1988	日展史編纂委員会	日 展
	展示デザインの原理	1986	R. S. マイルズ	丹 青 社
	東京芸術大学百年史東京美術学校篇第一巻	1987	芸術研究振興財団他	ぎ ょ う せ い
美の譜(一)植村鷹千代対談集	1988	保 坂 義	光 彩 美 術	
美の譜(二)現代作家対談集'83~'88	1988	”	”	
世界美術大事典 1	1988	相 賀 徹 夫	小 学 館	
講座20世紀の芸術 5 言語の冒険	1988	土 肥 美 夫 他	岩 波 書 店	
絵 画	画 題 辞 典	1988	齊 藤 隆 三	国 書 刊 行 会
	日 本 画 の 遺 産	1987		マ リ ア 書 房
	秘蔵浮世絵大観第3巻	1988		講 談 社
	” 第10巻	1987	檜 崎 宗 重	”
	ブ リ ュ ー ゲ ル 全 作 品	1988	森 洋 子	中 央 公 論 社
	印 象 派	1988	ジャン・クレイ	”
	藤田嗣治とエコール・パリ	1984		ノ ー ベ ル 書 房
	川 崎 小 虎 画 集	1987		京 都 書 院
	小 川 芋 銭 の 世 界	1987	鈴 木 光 男	教 育 書 籍
	ジャスパー・ジョーンズ	1986	東 野 芳 明	美 術 出 版 社
	英 国 の 水 彩 画	1987	齊 藤 泰 三	彩 流 社
	セ ザ ン ヌ 物 語 1	1986	吉 田 秀 和	中 央 公 論 社
	” 2	1986	”	”

	書名	刊行年	編著者名	発行所
絵画	昨日今日の作家たち	1987	河北倫明	芸艸堂
	画人遊歴 I	1984	〃	〃
	〃 II	1985	〃	〃
	異端の画家たち	1983	匠秀夫	求龍堂
	底鳴る潮 青木繁の生涯	1988	渡邊洋	筑摩書房
	日本西洋画事始め	1987	大沢寛三	PHP研究所
	鴨居玲画集 夢候 1947-84	1985		日動出版部
彫刻	高田博厚著作集 I	1985		朝日新聞社
	〃 II	1985		〃
	〃 III	1985		〃
	〃 IV	1985		〃
	木村賢太郎作品集	1988		美術出版社
	木内克口一型	1971		現代彫刻センター
	ナザレの少年 新約聖書より	1986	舟越保武画	ジー・シー・プレス
	ジャコメッティ	1988		リプロポート
	神楽面の彫り方	1988	中村延寿	日貿出版社
	形の美のために	1978	高田博厚	求龍堂
	石井鶴三全集 2	1986	石井鶴三	形象社
	〃 3	1986	〃	〃
	〃 4	1986	〃	〃
	〃 5	1987	〃	〃
	〃 6	1987	〃	〃
	〃 7	1987	〃	〃
〃 8	1987	〃	〃	
〃 9	1987	〃	〃	
〃 10	1988	〃	〃	
工芸	日本のガラス	1987	土屋良雄	紫紅社
	陶芸絵紋様 現代編	1987		求龍堂
	最新現代陶芸作家事典	1987		光芸出版社
	金工の伝統技法	1986	香取正彦他	理工学社
書	文房四宝 墨の話	1981	榭莫山	角川書店
	〃 硯の話	1981	〃	〃
	〃 筆の話	1981	〃	〃
	〃 紙の話	1981	〃	〃
	常用墨場辞典	1988	前野直彬他	小学館
	中田勇次郎著作集 第I巻	1984	中田勇次郎	二玄社
〃 第II巻	1984	〃	〃	
版画	パリの版画工房	1981	フェルナン・ムルロ	求龍堂
	駒井哲郎の銅版画	1983		岩崎美術社
	二見彰一銅版画集	1987	河合晴生	阿部出版
	中林忠良・全版画1961-1983	1983		シロタ画廊
	黒崎彰・全木版画	1984		〃
	フンデルトヴァッサー全版画作品	1988	ヴァルター・コシャルキー	岩波書店
	自選山形博導画集	1988		講談社

	書名	刊行年	編著者名	発行所
デザイン	田中一光デザインの世界 文 様 I " II	1987 1988 1988	田 中 一 光	講 談 社 朝 日 新 聞 社 "
写 真	わが生涯の芸術家たち	1987	ジョルジュ・ブラスアイ	リプロポート
一般・ 参考図書	新 英 和 大 事 典 新 和 英 大 事 典 漢 和 大 事 典 出 版 年 鑑 '88 コンサイス地名事典 日本 " 外国 著 作 権 事 典 日 本 近 代 文 学 大 事 典	1987 1987 1985 1988 1987 1987 1987 1985 1984	小 稲 義 男 他 増 田 綱 藤 堂 明 保 著作権資料協会 日本近代文学館	研 究 社 " 学 習 研 究 社 出 版 ニ ュ ー ス 社 三 省 堂 " 出 版 ニ ュ ー ス 社 講 談 社

寄 贈 図 書

	書名	刊行年	編著者名	発行所
美術総記	千葉市立加曽利貝塚博物館 開館20周年記念特別講座講演集 日本美術年鑑 昭和61年版 一水会五十年史 個性派美術館の旅 筑波大学付属聾学校専攻科生徒作品集 私の近代美術論集 私の古美術論集 行動する画家 ちば人国記 II メイヤーズ世界オークション記録集1988 性美術入門 石仏めぐり女のひとり旅3 わいせつ裁判考 記録を記録する	1988 1988 1988 1988 1988 1988 1987 1988 1988 1988 1929 1971 1979 1982	田 中 穰 フランスワーズ・モレジャン監修 本 間 正 義 " 東 大 寺 乱 毎日新聞千葉支局 原 浩 三 森 山 隆 平 読売新聞社社会部 黒 井 千 次	千葉市立加曽利 貝 塚 博 物 館 東京国立文化財研究所 中央公論美術出版 光 文 社 筑波大学付属聾学校 美 術 出 版 社 " 沖 積 舎 毎 日 新 聞 社 矢野経済研究所 雄 山 閣 文 化 出 版 局 読 売 新 聞 社 福 武 書 店
絵 画	幻 視 の 空 間 松 本 富 太 郎 画 集 四 方 田 草 炎 素 描 集 ある戦没画家の青春金子孝信画集 画集花華 白日を求めて 風景画全集 美しい日本2 " " 3 " " 4 " " 6 長 山 義 一 画 集 新 東 京 百 景	1988 1988 1987 1988 1987 1988 1988 1988 1987 1988	川 上 茂 昭 すいどーば美術学院他 並 木 義 治 本 間 正 義 岩 崎 吉 一 小 池 賢 博・下 山 肇 内 山 武 夫	か ど 創 房 松本富太郎画集出版刊行会 高 澤 学 園 金 子 孝 信 画 集 刊 行 委 員 会 たぶろう美術協会 ぎょうせい " " " 藝 林 社 東京都生活文化局

	書名	刊行年	編著者名	発行所
絵画	我が水彩	1920	石井柏亭	日本美術学院
	小糸源太郎随筆集	1988	小糸源太郎	國分繁子
	晩年の弟子	1988	遠藤健郎	画廊梟
	水彩画入門	1984	不破章	保育社
	大國章夫画集	1988		日本経済新聞社
	横田建三画集	1988		横田建三画集刊行委員会
	八木義之介津軽西海岸(五能線)旅草子	1981		秋田文化出版
彫刻	中原悌二郎集	1988		碌山美術館
	木下繁彫刻集	1988		六藝書房
	舟越保武デッサン'87	1988		ギャラリーせいはう
	町田市 の 佛像	1988	町田市立博物館	町田市立博物館
工芸	やきものこの現代	1988	八木一夫・海上雅臣	文化出版局
書	古筆入門	1986	堀江知彦・堀江恭子	知道出版
	杜詩選書作集	1983	川瀬眞洞	学習研究社
	臨黄山谷子瞻帖	1987	中台青陵	回瀾書道会
	中台青陵作品集	1987		"
	紫林木翰	1988		田中幸男
版画	版画の技法と表現	1987		町田市立国際版画美術館
	清原啓子作品集	1988		美術出版社
	下沢木鉢郎作品集	1988		弘前市立博物館
写真・演劇	小澤俊樹作品集	1988	小澤俊樹	フォトテック
	立木義浩写真帖<イヴたち>	1970		サンケイ新聞社
	大竹省二写真集ジャネット	1974		日本カメラ社
	讃歌杉山吉良作品集	1972		紀伊國屋書店
	報道写真集海軍兵學校	1943	眞継不二夫	番町書房
	篠山紀信 オレレ・オララ	1971		集英社
	細江英公写真集抱擁	1971		写真評論社
	美の生態	1948	眞継不二夫	大泉書店
	篠山紀信集 nude	1970		毎日新聞社
	立木義浩私生活加賀まりこ	1971		"
	大倉舜二 杉本エマ	1971		"
	不知火海—水保・終りなきたかい	1973	石牟礼道子	創樹社
	日本の老人たち	1973	船越恵	"
	風ささやく遠野	1881	長尾宇迦	桐原書店
	カラー京都の菓子	1972	鈴木宗康	淡交社
	秋山庄太郎の千夜一夜	1981	秋山庄太郎	竹井出版
	写真への旅	1976	荒木維惟	朝日ソノラマ
	ヌードを写す	1976	中村立行	"
	裸婦の写し方		三宅定雄	
	MY AMERICA	1982	立木義浩	集英社
	人間零歳	1960	吉岡智子他	二見書房
写真濃風土記—茶のふるさと	1973	越統太郎	信濃路	
イッピー ガール イッピー	1970	タッド・若松	平凡社	

	書名	刊行年	編著者名	発行所
写真・演劇	写真集 狂気のうたげ	1970	一村哲也	実業之日本社 集英社 ベストセラーズ 全日本学生自治会 総連合中央執行委員会
	化粧	1983	井上ひさし	
	曼陀羅	1971	沢渡朔他	
	戦後映画の主人公たち	1973	石子順	
一般図書	ちば人国記 経済・野球編	1988	毎日新聞千葉支局	毎日新聞社
	世界地図帳	1988	野村正七他	昭文社
	房総文学散歩上	1973	鳥海宗一郎	千秋社
	〃 中	1973	〃	〃
	〃 下	1973	〃	〃
	春日局と徳川家	1989		広論社

分類別図書数

(平成元年3月31日現在)

分類	昭和62年度まで	昭和63年度	計
美術総記	1017	48	1065
絵画	806	38	844
彫刻	105	23	128
工芸	211	5	216
書	88	12	100
版画	76	10	86
デザイン	22	3	25
写真・映像	117	28	145
その他	45	0	45
雑誌 (合冊・復刻)	283	0	283
一般図書	243	14	257
合計	3013	181	3194

	昭和62年度まで	昭和63年度	計
購入図書	1763	103	1866
寄贈図書	1250	78	1328

(除展覧会図録)

博物館実習

関係各大学の依頼により学芸員資格取得希望の学生を下記のとおり受入れた。

① 7月25日～7月30日

跡見学園女子大学 5名、白梅学園短期大学 4名、和洋女子大学 4名、東京都立大学 1名、共立女子大学 2名、学習院大学 3名（計19名）

② 8月1日～8月6日

上智大学 2名、鶴見大学 3名、東京家政学院大学 1名、東京学芸大学 2名、千葉大学 8名（計16名）

③ 7月25日～8月6日

東洋大学 1名、武蔵野美術大学 1名、女子美術大学 1名（計3名）

日程及び内容

①②③ グループ

日程	午 前	午 後
7/25 8/1	9:30～ 開講式 9:40～10:30 館長講義 10:40～12:00 施設見学	1:00～1:50 庶務課長講義 2:00～3:50 学芸課長講義
7/26 8/2	9:15～10:15 事業班業務の概要 10:30～11:20 事業班業務の実習 11:30～12:00 団体展見学	1:00～1:50 普及班業務の概要 2:00～4:30 普及班業務の実習
7/27 8/3	9:15～12:00 実技講座の企画から実施まで (A) アトリエの整理 9:15～12:00 資料のとり扱い方 (B) 梱包について	1:00～3:50 調書のとり方、資料の保存、資料カード整備 (A) 1:00～3:50 実技講座の企画から実施まで (B) アトリエの整備
7/28 8/4	9:15～12:00 資料の記録、視聴覚機器の取扱い (A) 9:15～12:00 調書のとり方、資料の保存、資料カードの整備 (B)	1:00～3:50 調書のとり方、資料の保存、資料カードの整備 (A) 1:00～3:50 資料の記録、視聴覚機器の取扱い方 (B)
7/29 8/5	9:15～10:15 情報資料室の概要 10:30～12:00 情報資料室整備	1:00～3:30 作家研究 3:50～4:30 収蔵作品展見学
7/30 8/6	9:15～12:00 展覧会の企画から開催まで、資料の所在調査について	1:00～2:00 友の会活動について 2:15～3:45 まとめ、反省文 4:00～ 閉講式

③ グループ後半

日程	午 前	午 後
8/1~3	普及班業務の実習	普及班業務の実習
8/4~5	事業班業務の実習	事業班業務の実習
8/6	まとめ	閉講式

県芸術祭

第40回千葉県美術展覧会

会 期 昭和63年10月22日(土)～11月13日(日)
 展示点数 2,204点
 入場者数 20,606人
 主 催 千葉県美術会等

本県の美術家の作品を広く紹介するとともに、県民の美意識を高め郷土美術文化の振興と情操の純化に資することを目的として開催した。

	会員出品	公募出品	入選点数	陳列点数	新入選
日本画	103	199	157	260	34
洋画	192	673	416	608	76
彫刻	66	41	35	101	10
工芸	64	145	119	183	20
書道	204	1030	848	1052	151
計	629	2088	1575	2204	291



県展・美術を語る会

10月30日(日)午後2時～3時30分 美術館講堂
 「明治以降の絵画について」
 講師 美術評論家 嘉門安雄

昭和63年度 千葉県高等学校総合芸術祭 美術工芸書道作品展

会 期 昭和63年11月16日(水)～11月27日(日)
 入場者数 4,754人
 主 催 千葉県高等学校総合芸術祭実行委員会等

千葉県高等学校における美術・工芸・書道の授業及び部活動の平素の姿を紹介し、生徒の教材として、また教師の指導の研究材料として役立てるとともに、広く一般社会に対して現在の千葉県高等学校美術・工芸・書道教育についての理解と認識を深めることを目的として開催した。



参加校

部 門	書 道	美術・工芸	計
生 徒	124 校	160 校	284 校
教 員	112 校	18 校	129 校
計	236 校	178 校	413 校

応募(展示)点数

部 門	書 道	美術・工芸	計
生 徒	556 点	2104点	2660点
教 員	126 点	23点	149点
計	682 点	2127点	2809点

第35回 千葉県勤労者美術展

会 期 昭和63年 9月20日(火)～ 9月25日(日)
展示点数 216点
入場者数 1,494人
主 催 千葉県労働者福祉協議会等

勤労者が余暇を利用して創作した美術作品（洋画・書道・写真）を発表する場を提供することにより、勤労者の教養を高め、文化の向上を図ることを目的として開催した。

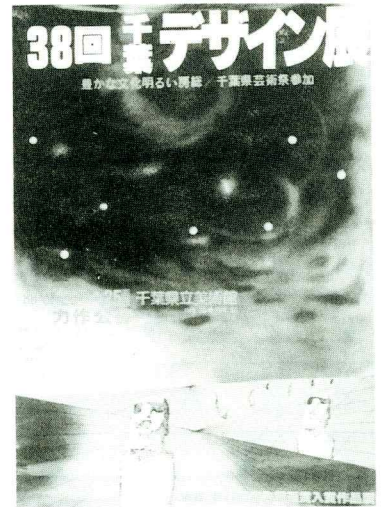
応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数
150 人	216 点	150 人	216 点	216 点

第38回 千葉デザイン展

会 期 昭和63年 9月20日(火)～ 9月25日(日)
展示点数 61点
入場者数 1,867人
主 催 千葉商業美術協会等

商業デザインの作品を公募し展示することにより、県内デザインの質的向上と量的拡大を図るとともに、県内におけるデザイン志向者の育成を図ることを目的として開催した。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数
104 人	116 点	55 人	61 点	61 点



第11回 千葉県写真展

会 期 昭和63年 9月13日(火)～ 9月25日(日)
展示点数 166点
入場者数 3,892人
主 催 千葉県写真家協会・全千葉県写真連盟等

写真を通じて、本県の写真文化向上に資するために、広く県民から作品を公募し、本県の観光、風俗、文化を紹介する目的で開催した。

応募者数	応募点数	入選者数	入選点数	展示点数
251 人	500 点	135 人	135 点	166 点

団 体 展

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
第 12 回 鳳 聲 会 書 作 展	4 . 26 ~ 5 . 1	書	93
武蔵野美術大学校友会千葉県支部展	4 . 26 ~ 5 . 1	油彩画・水彩画・日本画・工芸	31
第 15 回 千 葉 新 協 展	4 . 26 ~ 5 . 1	水 彩 画・油 彩 画・写 真	77
第 8 回 千 葉 美 術 工 芸 展	4 . 26 ~ 5 . 8	工 芸	69
第 14 回 歩 会 彫 刻 展	4 . 26 ~ 5 . 8	彫 刻	50
第 28 回 白 扇 書 道 会 展	5 . 3 ~ 5 . 8	書	3,765
第 19 回 表 美 展	5 . 3 ~ 5 . 8	表 装・額 装・屏 風	125
第25回全日本総合書道大展览会	5 . 10 ~ 5 . 15	書	1,206
第 11 回 千 葉 展	5 . 10 ~ 5 . 15	絵 画 ・ 立 体	50
第 12 回 墨 の 県 展	5 . 17 ~ 5 . 22	水 墨 画	374
第 33 回 二 科 会 千 葉 支 部 展	5 . 24 ~ 5 . 29	油 彩 画 ・ 水 彩 画	974
千 葉 二 紀 展	5 . 24 ~ 5 . 29	油 彩 画 ・ 彫 刻	51
第28回千葉市アマチュア美術会展覧会	5 . 31 ~ 6 . 5	絵 画・書・写 真・彫 刻・工 芸	792
第 14 回 貌 展	5 . 31 ~ 6 . 5	絵 画・写 真・工 芸	61
第 10 回 新 槐 樹 社 千 葉 県 支 部 展	6 . 7 ~ 6 . 12	油 彩 画	52
第 11 回 千 葉 一 陽 展	6 . 7 ~ 6 . 12	油 彩 画	71
第 15 回 千 虹 会 日 本 画 展	6 . 7 ~ 6 . 12	日 本 画	34
第 13 回 関 東 全 展	6 . 14 ~ 6 . 19	絵 画	178
第 3 回 日 本 画 四 季 展	6 . 14 ~ 6 . 26	日 本 画	84
千 葉 幼 児 美 術 展	6 . 14 ~ 6 . 19	絵 画	967

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
第 35 回 千 葉 県 書 道 協 会 展	6 . 21 ~ 6 . 26	書	327
第 2 回 千 葉 水 彩 展	6 . 21 ~ 2 . 26	水 彩 画	97
第 32 回 千 葉 県 小・中・養護学校児童生徒書写展覧会	6 . 28 ~ 7 . 3	書 ・ ペ ン 字	1,200
第 6 回 明日を拓く教育美術展	6 . 28 ~ 7 . 3	油 彩 画・水 彩 画・工 作	2,000
第 17 回 千 葉 市 勤 労 者 美 術 展	6 . 28 ~ 7 . 3	絵 画 ・ 工 芸 ・ 書	126
第 11 回 精 鋭 展	6 . 28 ~ 7 . 3	油 彩 画・彫 刻	100
第20回千葉市水墨画同好会連合会展	7 . 5 ~ 7 . 17	水 墨 画	491
第 16 回 水 彩 連 盟 千 葉 支 部 展	7 . 19 ~ 7 . 24	水 彩 画	65
第 66 回 習 美 会 初 夏 大 作 展	7 . 19 ~ 7 . 24	日 本 画 ・ 油 彩 画・水 彩 画	154
第 5 回 千 葉 中 美 展	7 . 19 ~ 7 . 24	日 本 画・水 彩 画・油 彩 画・版 画	37
第 22 回 漱 雲 会 全 国 書 道 展	7 . 26 ~ 7 . 31	書 道	750
第 8 回 千 葉 サ ン ケ イ 現 代 洋 画 展	7 . 26 ~ 8 . 7	油 彩 画	220
第 17 回 写 真 千 葉 県 展	8 . 2 ~ 8 . 14	写 真	903
日本水彩画会第 4 回千葉県支部展	8 . 9 ~ 8 . 14	水 彩 画	60
第34回静雅書道会小中学部千葉地区展	8 . 16 ~ 8 . 21	書	148
第 9 回 龍 峽 書 道 会 千 葉 県 人 展	8 . 16 ~ 8 . 21	書	430
第 12 回 尽 墨 会 書 作 展	8 . 16 ~ 8 . 21	書	39
第 18 回 い て ふ 会 彫 刻 展	8 . 16 ~ 8 . 28	彫 刻	54
昭和63年度第16回千葉市教職員美術展覧会	8 . 23 ~ 8 . 28	油 彩 画・陶 芸・立 体	93
第21回千葉県高等学校合同写真展	8 . 23 ~ 8 . 28	写 真	480

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
第 8 回日本春秋書院千葉県書道連盟展	8. 23～8. 28	書	100
第 6 回日中友好書道展覧会	8. 30～9. 4	書	1,750
第 13 回 葉 美 会 展	9. 6～9. 11	絵 画	61
第 18 回新構造千葉支部展	9. 6～9. 11	油 彩 画・工 芸・写 真	107
千 葉 等 迦 展	9. 13～9. 18	油彩画・水彩画・版 画・写 真	61
第 4 回日本書道学会千葉県連展	9. 13～9. 18	書	320
第26回新世紀美術協会千葉支部展	9. 20～9. 25	油 彩 画・水 彩 画	77
昭和63年度第31回千葉市小中養護学校 児童生徒作品総合展覧会	9. 27～10. 2	図工美術・理 科・家庭科作品	5,200
第 14 回 秋 耕 会 千 葉 支 部 展	10. 4～10. 10	絵 画	84
第15回文化書道千葉県連合会公募展覧会	10. 4～10. 10	書	853
第 8 回二科会写真部千葉支部展	10. 4～10. 10	写 真	170
第 20 回 フ ァ ン シ ー 洋 画 展	10. 12～10. 16	油 彩 画	93
第 20 回 現 展 千 葉 支 部 展	10. 12～10. 16	油 彩 画	109
ダネラ・デコパージュ展覧会	10. 12～10. 16	タピストリー ・ デコパージュ	130
第 33 回 こ ど も 県 展	11. 29～12. 1	絵 画	12,496
第 6 回 明 る い 社 会 づ く り ポスターコンクール展覧会	12. 13～12. 18	ポ ス タ ー	590
今日の美術を考える会展	12. 13～12. 25	絵 画 ・ 立 体	28
第 24 回 登 龍 社 宮 坂 会 書 初 展	1. 5～1. 8	書	483
第 18 回 千 葉 県 大 学 美 術 連 盟 展	1. 5～1. 8	絵 画	72
子 ど も 造 形 展	1. 10～1. 16	絵 画 ・ 工 作	1,000

展 覧 会 名	会 期	作 品 種 別	展示点数
親 子 絵 画 展	1. 10～1. 16	水 彩 画・油 彩 画	134
富 士 百 景 写 真 展	1. 10～1. 16	写 真	59
第16回現代書壇代表展・現代書壇巨匠展 千葉書壇秀抜展・千葉書壇新進展	1. 18～1. 22	書	395
千葉市観光絵画と写真コンクール作品展	1. 24～1. 29	油 彩 画 ・ 写 真	248
第 4 回 書 星 選 抜 展	1. 24～1. 29	書	235
第 6 回 千 葉 県 医 師 会 美 術 展	1. 24～1. 29	絵 画・工 芸・書・写 真	119
第22回千葉県老人クラブ会員作品展	1. 24～1. 29	絵 画・彫 刻・工 芸・書・写 真	344
群 鷗 書 人 展	1. 31～2. 5	書	69
第41回千葉県小中高校書初展覧会	1. 31～2. 5	書	887
昭和63年度千葉市小中養護学校 児童生徒書写展覧会	1. 31～2. 5	書	1,496
千葉大学教育学部美術科卒業制作展	2. 7～2. 12	絵 画・彫 刻・デザイン・工 芸	48
第 22 回 千 葉 大 学 学 生 書 道 展	2. 7～2. 12	書	137
第 12 回 唱 和 会 書 展	2. 14～2. 19	書	60
幕張北高校書道コース卒業制作展	2. 14～2. 19	書	96
第 14 回 千 葉 県 民 写 真 展	2. 14～2. 26	写 真	278
和洋女子大学卒業展(雁鴻会書道展)	2. 21～2. 26	書	70
第 10 回 千 葉 藍 筍 会 かな 書 作 展	2. 21～2. 26	書	59
昭和63年度第20回記念千葉市民美術展覧会	3. 1～3. 19	日本画・洋画・彫刻・工芸・書 写 真 ・ グラフィックデザイン	1,340
第 36 回 書 星 教 育 部 展	3. 21～3. 26	書	1,344

利用状況

昭和63年度入館者一覧

種別 月	開館 日数	個人			団体						人数合計	備考
		一般成人	大・高生	中・小生	一般成人		大・高生		中・小生			
					人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数		
4	5	1,376	104	381	0	0	0	0	0	0	1,861	
5	26	15,374	670	4,195	422	12	284	4	276	5	21,221	} 特別展 「デュファイ展」
6	26	11,693	686	3,136	429	10	65	2	284	3	16,293	
7	27	9,280	429	2,638	587	13	37	1	64	3	13,035	
8	26	8,540	894	2,287	296	8	0	0	114	3	12,131	
9	26	10,164	435	1,938	538	13	35	1	833	5	13,943	} 特別展 「石井柏亭展」
10	22	15,195	505	4,130	875	25	35	1	843	6	21,583	
11	25	12,933	1,171	1,871	1,090	28	0	0	489	4	17,554	
12	22	14,103	240	8,267	319	10	0	0	655	11	23,584	
1	23	8,520	336	2,282	618	17	0	0	291	2	12,047	
2	23	8,004	534	1,838	206	8	69	2	176	4	10,827	
3	27	10,548	477	1,879	162	5	189	3	124	2	13,379	
計	278	125,730	6,481	34,842	5,542	149	714	14	4,149	48	177,458	

開館以来 総開館日数 4,182日 総入館者数 2,327,353人

地域別入館者数

(人)

種別 月	開館 日数	県内		県外		外国
		千葉市	県内	東京都	他県	
4	5	824	853	125	57	2
5	26	9,848	9,584	831	921	37
6	26	8,897	5,780	899	652	65
7	27	6,610	5,319	507	551	48
8	26	4,838	5,966	553	727	47
9	26	7,426	5,575	455	424	63
10	22	11,713	8,521	746	575	28
11	25	7,338	9,202	475	528	11
12	22	5,316	17,660	358	245	5
1	23	5,456	5,735	340	496	20
2	23	5,326	4,413	613	458	17
3	27	7,075	5,232	543	513	16
計	278	80,667	83,840	6,445	6,147	359
		164,507		12,592		

作品貸出一覧

作家名	作 品 名	出 陳 展 覧 会 名	会 期 ・ 展 示 会 場	貸 出 先
立石 秀春	九 十 九 里	第2回佐賀県現代作家美術展	63.4.2～4.17 佐賀県立美術館	立石秀春
吉岡 堅二 "	馬 濤	特別展「吉岡堅二—新日本画のバ イオニア」	63.4.2～5.22 山種美術館 後期(63.4.27～5.22貸与)	山種美術館
浅井 忠 " " " " 鶴田 吾郎	金 州 城 壁 上 金 州 城 南 門 外 雉子窩第二軍司令部 磬 梯 山 の 図 " 女子挺身隊(パラシュート工場)	「日本のルポルタージュ・アート」展	63.5.14～6.12 板橋区立美術館	板橋区立美術館
東山 魁夷 "	春 雪 秋 深	東 山 魁 夷 展	63.5.22～6.26 京都市美術館 63.7.2～8.14 名古屋市美術館 63.8.27～10.2 兵庫県立近代美術館	京都市美術館 名古屋市美術館 兵庫県立近代美術館
秋山 逸生 " " "	菱華文象嵌長手箱 カンナ芝山象嵌襟飾 蝶 貝 象 嵌 箱 蕾 芝 山 象 嵌 額	特別展「貝と私たちの暮らし」	63.7.1～8.28 千葉県立安房博物館	千葉県立安房博物館
浅井 忠 "	金 州 城 南 門 外 徒 征 画 稿 (書 籍)	戦後美術の原像展—戦争の刻印と 鎮魂—	63.7.30～8.28 いわき市立美術館	いわき市立美術館
朱 鳴 崗 張 懷 江 朱 曙 征 師 松 齡 鄭 爽 白 易 振 生 陳 一 新 鄭 小 焰 季 間 勤 蔡 知 新 張 遠 帆	天 下 無 難 事 江 南 水 鎮 九 華 山 鳳 凰 松 黃 帝 陵 白 花 風 雲 前 哨 踏 遍 懸 崖 尋 珍 草 織 女 小 鳥 晴 嵐 家 住 江 南 明 鏡 中 構 図 (一)	中国現代版画展	63.8.12～9.18 町田市立国際版画美術館	町田市立国際版画美術館
浅井 忠 "	葵 屋 根 フォンテンブローの夕景 老 母 像 婦 人 像 曳 船 通 り 沢 入 駅 平壤大同江煉光亭 金 州 城 壁 上 洋 上 の 夕 陽 京都高等工芸学校の庭 田 植 之 図 琵琶法師 狂 女 花 印刷物図案(花木) 花 瓶 図 案 印刷物図案(木かげの女) 陶器額皿図案(溪流) 蒔絵菓子鉢図案(鉢の図) 羅 漢 像 ライオンの像	浅 井 忠 展	63.8.27～10.2 名古屋市美術館	名古屋市美術館

作家名	作 品 名	出 陳 展 覧 会 名	会 期 ・ 展 示 会 場	貸 出 先
富取 風堂 若木 山	葛 西 風 景 池 の 春	日本美術院創立九十周年記念展	63. 9. 6 ~ 9. 18 日本橋三越本店 63. 9. 22 ~ 9. 27 松坂屋本店 63. 9. 29 ~ 10. 11 大丸心斎橋店	日本美術院 日本経済新聞社
浅井 忠 "	花 瓶 図 案 パ ラ の 花	「図案の変貌—1868~1945」展	63. 9. 20 ~ 11. 6 東京国立近代美術館工芸館	東京国立近代美術館
中西 利雄 " " " "	トリエール・シュール・セヌ 南 仏 風 景 人 物 四 人 の 女 曇り日の離宮と駅	水彩画の巨匠中西利雄展	63. 10. 1 ~ 10. 30 浜松市美術館 64. 1. 4 ~ 元. 2. 26 伊丹市立美術館	浜松市美術館 伊丹市立美術館
渡辺 学	夜 明 け	いわき市立美術館開館五周年記念展 日本画戦後の歩みII	63. 10. 1 ~ 11. 6 いわき市立美術館	いわき市立美術館
浅井 忠 " " " 松岡 寿	老 母 像 中 沢 岩 太 像 農 家 男 性 裸 像 森 と 小 川	小山正太郎と「仙台の桜」—近代 日本洋画の夜明け展—	63. 10. 1 ~ 11. 6 新潟県美術博物館	新潟県美術博物館
浅井 忠	薬 屋 根	写実の系譜III—明治中期の洋画	63. 10. 8 ~ 12. 4 東京国立近代美術館 63. 12. 20 ~ 元. 2. 5 京都国立近代美術館	東京国立近代美術館
フォンタネージ 浅井 忠 "	神 女 之 図 沢 入 駅 フォンテンブローの夕景	開館10周年記念特別展「中丸精十郎とその時代展」	63. 10. 12 ~ 11. 23 山梨県立美術館	山梨県立美術館
津田 信夫	北 辺 夜 描 子	日展80年記念展	63. 10. 26 ~ 11. 7 銀座松屋	読売新聞社
小倉惣次郎 "	伊 藤 博 文 像 明 治 天 皇 像	近代日本彫刻の歩み—西欧との出会い—	63. 11. 3 ~ 12. 18 静岡県立美術館	静岡県立美術館
郡司 和男	詩 人 の 肖 像	開館記念展第2部「現代茨城の美術展」 —戦後40年の流れ—《後期》昭和生まれの作家	64. 1. 7 ~ 元. 2. 12 茨城県近代美術館	茨城県近代美術館
東山 魁夷 "	春 秋 雪 深	東 山 魁 夷 展	元. 2. 14 ~ 4. 2 ベルリン国立東洋美術館 元. 4. 13 ~ 6. 4 ハンブルク工芸美術館	日本経済新聞社
三橋兄弟治 " " " " "	楽 器 の ある 静 物 染 色 を す る 女 作 品 II 白いスペースに於ける直線の構成A ト レ ド 早 春 ハ テ ィ バ の 城 壁	「三橋兄弟治の”詩と真実”展	元. 2. 8 ~ 2. 19 小田急グランドギャラリー	東京新聞社
安井曾太郎	熱 海 附 近	安井曾太郎生誕100年記念展	元. 3. 10 ~ 3. 28 西武美術館	毎日新聞社

千葉県立美術館友の会（葉美会）

1. 運営方針

- (1) “みる・かたる・つくる” 美術館活動に積極的に参加する。
- (2) 組織の拡充と活動の充実をはかる。

2. 組 織

- (1) 会員数 個人会員792名 賛助会員9名
- (2) 役員 顧問1名 名誉会員4名 会長1名 副会長3名 監事3名 理事若干名 評議員若干名

3. 事 業

- (1) 友の会だより “しおさい” の発行、年4回。各1000部印刷し、会員等に配布した。
- (2) 第13回葉美会展の開催
会 期 昭和63年9月6日(火)～9月11日(日) 出品者 43人 展示点数 71点
- (3) 館事業への協力
館に協力して、美術鑑賞の旅や特別展解説ボランティアを実施したほか、講演会・語る会・実技講座など県民アトリエ事業に積極的に参加した。

4. 美術鑑賞の旅

美術作品や文化財を訪ねながら、美を観る眼を養うことを目的に美術鑑賞の旅を行った。

(1) 春の美術鑑賞の旅

期 日 昭和63年7月21日(休)

参加者数 45人

梅雨の合い間でしたが、好天に恵まれ、奥多摩の玉堂美術館、八王子の東京富士美術館、村内美術館を訪れた。日本画と洋画のすばらしい作品に触れ、有意義で楽しい一日を過ごした。

(2) 秋の美術鑑賞の旅

期 日 昭和63年10月13日(休)～14日(金)

参加者数 27人

本年の一泊旅行は、初めての試みとして、新幹線を利用し、京都と奈良を訪れた。奈良では「ならシルクロード博」を巡り、国立博物館、県立美術館ではシルクロードの美術作品を鑑賞した。京都では、国立近代美術館、市美術館を訪れ、古都の秋を満喫した旅だった。



美術館友の会 秋の美術鑑賞の旅

5. 昭和63年度 友の会実技講座

講座名	期 日	日数	定員	講 師
日本画入門講座	1月26・27・28・29／2月1・2・3日 (木) 金 (土) (日) (水) (木) (金)	7	25	五十嵐 幹
洋画入門講座 (1)	6月22・23・25・26・28・29日 (木) (木) (土) (日) (火) (水)	6	30	日和田利正
洋画入門講座 (2)	10月29・30／11月2・3・5・6日 (土) (日) (水) (木) (土) (日)	6	30	松沢 茂雄
洋画入門講座 (3)	2月1・3・7・8・10・12日 (水) (金) (火) (水) (金) (日)	6	30	久保木 彦
デッサン入門講座 (1)	5月13・14・15日 (金) (土) (日)	3	30	五十嵐光昭
デッサン入門講座 (2)	8月2・3・4日 (火) (水) (木)	3	30	根岸 茂行
彫塑入門講座	9月13・14・15・20・21・22・23日 (火) (水) (木) (火) (水) (木) (金)	7	20	鈴木 徹
版画入門講座	11月22・23・24・26・27・29・30日 (火) (水) (木) (土) (日) (火) (水)	7	30	牛玖 健治
陶芸入門講座	8月24・25・26／9月16・28日 (水) (木) (金) (金) (木)	5	30	鎗田 和平
七宝焼入門講座	7月9・10日 (土) (日)	2	30	市川寿賀子
金工入門講座	8月30・31／9月1・2・6・7日 (火) (水) (木) (金) (火) (水)	6	20	小林 正利
書芸入門講座	7月26・27・28・29日 (火) (水) (木) (金)	4	30	飯高 和子
てん刻入門講座	11月4・5・6日 (金) (土) (日)	3	30	鈴木 知秋



洋画入門講座



彫塑入門講座

収 集 事 業

資料収集については、日本画7点、洋画54点、彫刻10点、工芸5点、書6点、版画3点、研究資料1点を新たに収蔵した。特に基金によりミレーなど11点を購入した。

収 蔵 資 料

昭和63年度新収蔵作品一覧

日 本 画

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	島 田 良 祐	乳の祈り(チブサン古墳)	昭和52	紙 ・ 着 彩	166.5×212.5	購 入
2	西 村 昭二郎	新 雪	昭和59	紙 ・ 着 彩	167.0×227.0	購 入
3	黒 沢 吉 蔵	古 郷 晩 夏	昭和63	紙 ・ 着 彩	162.1×259.1	購 入
4	横 尾 芳 月	新 春	不 詳	紙 ・ 着 彩	167.5× 83.8	寄 付
5	渡 辺 学	下 総 の 海 女	不 詳	紙 ・ 着 彩	65.0× 50.0	寄 付
6	島 田 良 祐	海 近 き 村	昭和29	紙 ・ 着 彩	129.0× 87.5	寄 付
7	杉 原 元 人	寂 巖	昭和62	紙 ・ 着 彩	210.0×149.5	寄 付

洋 画

番号	作 家 名	作 品 名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	国 松 桂 溪	仏 国 ト ル ド ン ヌ	大正12頃	キャンバス・油彩	50.7× 60.5	購 入
2	西 川 純	保 津 峡	不 詳	キャンバス・油彩	66.2× 60.5	購 入
3	相 田 直 彦	清 浪	不 詳	紙 ・ 水 彩	32.0× 41.0	購 入
4	須 田 国太郎	デッサン(膝に腕を置く裸婦)	昭和15~21	紙 ・ 鉛 筆	36.0× 25.5	購 入
5	〃	デ ッ サ ン (ロ バ)	昭和16	紙 ・ 鉛 筆	18.0× 25.5	購 入
6	〃	デ ッ サ ン (猫)	昭和24	紙 ・ 鉛 筆	24.5× 28.8	購 入
7	〃	デ ッ サ ン (猿)	昭和25	紙 ・ 鉛 筆	20.5× 23.8	購 入
8	〃	デ ッ サ ン (ちゃぼ)	昭和25	紙 ・ 鉛 筆	27.0× 35.7	購 入
9	〃	デ ッ サ ン (鷺)	昭和25頃	紙 ・ 鉛 筆	28.1× 22.5	購 入
10	〃	デッサン(水辺風景)	昭和26	紙 ・ 鉛 筆	22.2× 27.0	購 入
11	〃	デッサン(一乗寺天台高僧像)	昭和26	紙 ・ 鉛 筆	22.0× 27.0	購 入
12	〃	デッサン(興福寺慈恩大師)	昭和26	紙 ・ 鉛 筆	22.0× 27.0	購 入
13	〃	デ ッ サ ン (馬)	昭和28	紙 ・ 鉛 筆	21.5× 26.8	購 入
14	〃	デ ッ サ ン (走 鳥)	昭和28	紙 ・ 鉛 筆	20.5× 23.8	購 入
15	〃	デ ッ サ ン (う さ ぎ)	昭和30	紙 ・ 鉛 筆	22.0× 27.0	購 入
16	〃	デ ッ サ ン (能 舞 台)	昭和31	紙 ・ 鉛 筆	27.0× 36.0	購 入
17	〃	デッサン(腰かける裸婦)	不 詳	紙 ・ 鉛 筆	35.0× 25.0	購 入
18	〃	デ ッ サ ン (民 家)	不 詳	紙 ・ 鉛 筆	22.2× 27.0	購 入
19	〃	デッサン(橋のある風景)	不 詳	紙 ・ 鉛 筆	21.8× 26.5	購 入
20	〃	デ ッ サ ン (豹)	不 詳	紙 ・ 鉛 筆	21.5× 26.8	購 入
21	〃	デッサン(黒つぐみ)	不 詳	紙 ・ 鉛 筆	22.0× 27.0	購 入
22	〃	デ ッ サ ン (孔 雀)	不 詳	紙 ・ 鉛 筆	27.0× 35.8	購 入
23	〃	デッサン(馬・骨格標本)	不 詳	紙 ・ 鉛 筆	21.5× 26.8	購 入
24	〃	風 景 (漁 船)	不 詳	紙 ・ 水 彩	32.0× 44.5	購 入
25	太 田 洋 三	雨 あ が り の 街	昭和52	キャンバス・油彩	94.5×160.0	購 入
26	コンスタン・トワイヨン	河 辺 の 道	1860~65頃	キャンバス・油彩	72.5× 92.6	寄 付
27	柳 敬 助	静 物	大正10頃	キャンバス・油彩	38.1× 45.6	寄 付
28	〃	婦 人 像	不 詳	キャンバス・油彩	65.8× 45.8	寄 付
29	〃	デッサン(フランソワの小児)1	不 詳	紙 ・ 木 炭	63.0× 47.0	寄 付
30	〃	デッサン(フランソワの小児)2	不 詳	紙 ・ 木 炭	63.5× 48.0	寄 付
31	〃	デッサン(フランソワの小児)3	不 詳	紙 ・ 木 炭	64.5× 48.0	寄 付
32	〃	デ ッ サ ン (メ デ ィ チ)	不 詳	紙 ・ 木 炭	63.5× 48.0	寄 付

洋 画

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
33	柳 敬 助	デッサン(アグリッパ)	不詳	紙・木炭	63.5×48.0	寄付
34	"	デッサン(母子像)	不詳	紙・木炭	49.0×63.0	寄付
35	"	デッサン(男性頭部)	不詳	紙・木炭	63.5×48.0	寄付
36	"	デッサン(腰かける裸婦)	不詳	紙・木炭	63.0×48.0	寄付
37	"	デッサン(ポーズする裸婦)1	不詳	紙・木炭	62.0×47.8	寄付
38	"	デッサン(ポーズする裸婦)2	不詳	紙・木炭	63.0×48.0	寄付
39	石井 柏亭	真間の入江(下図)	明治37	紙・水彩	50.0×33.0	寄付
40	安藤 信哉	裸婦	昭和13	キャンバス・油彩	34.0×91.0	寄付
41	"	二人	昭和32	キャンバス・油彩	130.5×64.0	寄付
42	"	パリの窓	昭和37	キャンバス・油彩	73.2×59.9	寄付
43	"	軍室内	昭和42	キャンバス・油彩	117.0×117.0	寄付
44	"	室内	昭和43	キャンバス・油彩	117.0×117.0	寄付
45	"	室	昭和50	キャンバス・油彩	141.0×141.0	寄付
46	"	蓮	昭和52	キャンバス・油彩	117.0×117.0	寄付
47	"	みなと	不詳	紙・水彩	91.0×91.0	寄付
48	宮城 泰介	嘆き	昭和30	キャンバス・油彩	117.0×90.7	寄付
49	"	平和	昭和39	キャンバス・油彩	116.5×91.2	寄付
50	櫻井 慶治	フランスの女性	昭和62	キャンバス・油彩	129.3×161.2	寄付
51	太田 洋三	中央構造線風景	昭和63	キャンバス・油彩	128.0×160.0	寄付

彫 刻

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	受入方法
1	本郷 新	裸婦	昭和27	ブロンズ	高 83.0	購入
2	菊池 一雄	手を挙げる	昭和52	ブロンズ	高 35.0	購入

工 芸

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法 (cm)	受入方法
1	鹿島 一谷	布目象嵌菱つなぎ文南鐙水指	昭和56	彫金	高 16.1×径 14.0	購入
2	関谷 四郎	銅鉄壺	昭和49	鍛金	高 23.5×径 26.5	購入
3	増村 益城	乾漆波文溜塗盛器	昭和40	漆芸	高 7.5×径 38.5	購入
4	蓮田 修吾郎	鐘がなるリュウベック	昭和61	鑄金	縦150.0×横110.0	購入
5	武田 武弘	ランボウの詩より「朝」	昭和50	漆芸	縦175.0×横160.0	購入

書

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	津田 信夫	落花有意……………	昭和9	紙・墨	138.0×35.5	寄付
2	"	也褒也貶	不詳	紙・墨	34.5×87.0	寄付
3	"	一醉千日	昭和10	紙・墨	35.0×130.5	寄付
4	"	二股は……………	不詳	紙・墨	119.0×34.8	寄付
5	"	寒水……………	昭和10	紙・墨	138.5×34.7	寄付
6	浅見 蘭秀	牧水かる堂	昭和62	紙・墨	二曲左右とも166.0×164.0	寄付

版 画

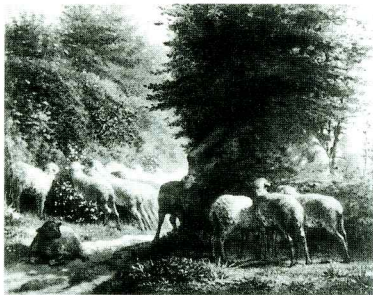
番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	石井 柏 亭	木 場	大正 3	紙 ・ 木 版	24.0× 18.0	寄 付
2	”	印 旛 沼	大正 6	紙 ・ 木 版	17.0× 24.0	寄 付
3	”	佐 原	大正 6	紙 ・ 木 版	17.0× 24.0	寄 付

研究資料

番号	作家名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(縦×横cm)	受入方法
1	椿 貞 雄	桃くり三年柿八年・・・	昭和 5	紙 ・ 墨 ・ 着彩	18.0× 21.2	寄 付

昭和63年度千葉県美術品取得基金購入一覧

番号	作家名	作品名	種 別	材質・形状	制作年	寸 法
1	ジャン・フランソワ・ミレー	垣根に沿って草を食む羊	洋 画	油 彩	1860頃	51.5× 62.2
2	カミーユ・コロロー	ナポリ近郊の思い出	”	”	1860～65	41.5× 62.0
3	ギュスターヴ・クールベ	眠 る 人	”	”	1853	46.7× 38.0
4	高 村 光太郎	裸 婦 座 像	彫 刻	ブロンズ	大正 5 頃	27.5×13.5×14.0
5	”	薄 命 児 男 子 頭 部	”	”	明治38	21.0×15.4×18.0
6	”	大 倉 喜 八 郎 の 首	”	”	大正15	14.5× 9.8×12.0
7	”	猪	”	”	明治38頃	15.0×24.0×13.0
8	”	十和田裸婦像のための中型試作	”	”	昭和28	112.0×62.5×36.5
9	”	十和田裸婦像のための「手」	”	”	昭和27	44.0×14.0×18.5
10	”	野 兎 の 首	”	”	昭和20～27	10.2× 8.9× 9.8
11	”	手	”	”	大正 7	39.0×28.7×15.2



ミレー「垣根に沿って草を食む羊」



コロロー「ナポリ近郊の思い出」

昭和63年度末収蔵資料一覧

種別	区分	保管換	購 入	寄 附	合 計
日 本 画		24	93	112	229
洋 画		36	255	315	606
彫 刻		10	65	24	99
工 芸		9	76	41	126
書		14	15	41	70
版 画		3	85	49	137
合 計		96	589	582	1,267
研 究 資 料		73	128	1,218	1,419

管 理 運 営

本館では県民のための開かれた明るい美術館をめざし「みる・かたる・つくる」をモットーとして、総合的、かつ動的な美の広場を目標として展示・普及活動を行っている。

協議会では美術館の運営及び展示資料の方向性について協議した。

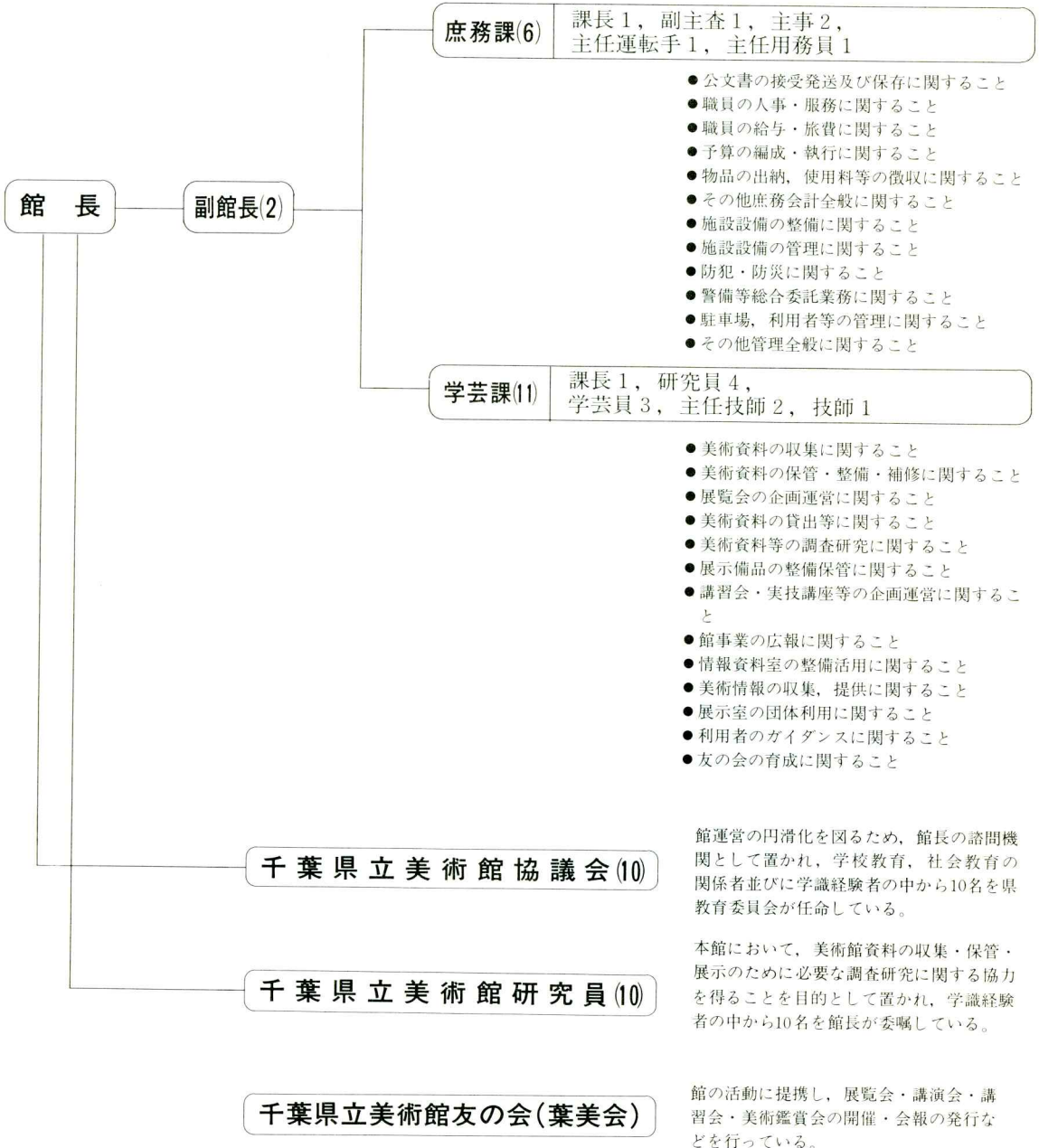
美術館研究員は、引き続き浅井忠の研究を行った。

運 営 方 針

- 県民のための美術館として、明るく親しまれる美術館。
- 学校教育・社会教育との関連から、教育普及活動を重視し、楽しく学べる美術館。
- 県民と美術家との交流の広場とし、相互の理解と向上を図る美術館。
- 房総の地にかかわりのある作家の作品と、関係資料の収集と研究をめざす美術館。
- 美の広場として、広く美術資料・情報等を収集し、みる・かたる・つくる活動を総合的に展開する美術館。

機 構

組織及び事務分掌 (元.3.31現在)



職員

館長	藤川昶
副館長	藤親道
事務課長	高石卓
副主査	高加藤貞美
主事	高渡辺和子
主任運転手	高豊田浩昌
主任用務員	高篠原恒雄

学芸課

学芸課長	中村哲
研究員	中地昭男
"	鈴木喜久夫
"	池田伊予
"	田坂浩
学芸員	米田耕司
"	大久保守司
"	藤川正司
主任技師	小泉幸代
"	小金雅成
技師	相川順子

千葉県立美術館協議会委員

氏名	役職	氏名	役職
池田知之	千葉県高等学校教育研究会 美術工芸部会長	鈴木民三	千葉県立美術館友の会会長
遠藤健郎	画家	戸田禎佑	東京大学教授
国松実枝子 (64.1.6 辞職)	千葉県社会教育委員	富山秀男	国立近代美術館次長
郡司幹雄	千葉県文化財保護審議会委員	野口貞子	千葉市婦人グループ連合会役員
柴田敏夫 (63.9.21 辞職)	NHK千葉放送局長	長谷川昂	千葉県美術会会長
大高好男 (63.9.22~)	NHK千葉放送局長		(五十音順, 敬称略)

美術館研究員

氏名	役職・勤務先等	氏名	役職・勤務先等
石倉総子	千葉市立こてはし台中学校教諭	田邊宏	勝浦市立興津中学校教諭
大須賀久大	成田市立中台中学校教諭	平戸美和子	千葉市立源小学校教頭
加曾利和夫	千葉市立高洲第二中学校教頭	村田哲朗	郡山市教育委員会 美術館建設準備室参事
高木正	佐原市立新島小学校教頭	南隆一	横芝町立横芝中学校教諭
高村照夫	千葉市立椿森中学校	綿貫啓一	船橋市企画部情報管理課副主査

(五十音順, 敬称略)

予算概要

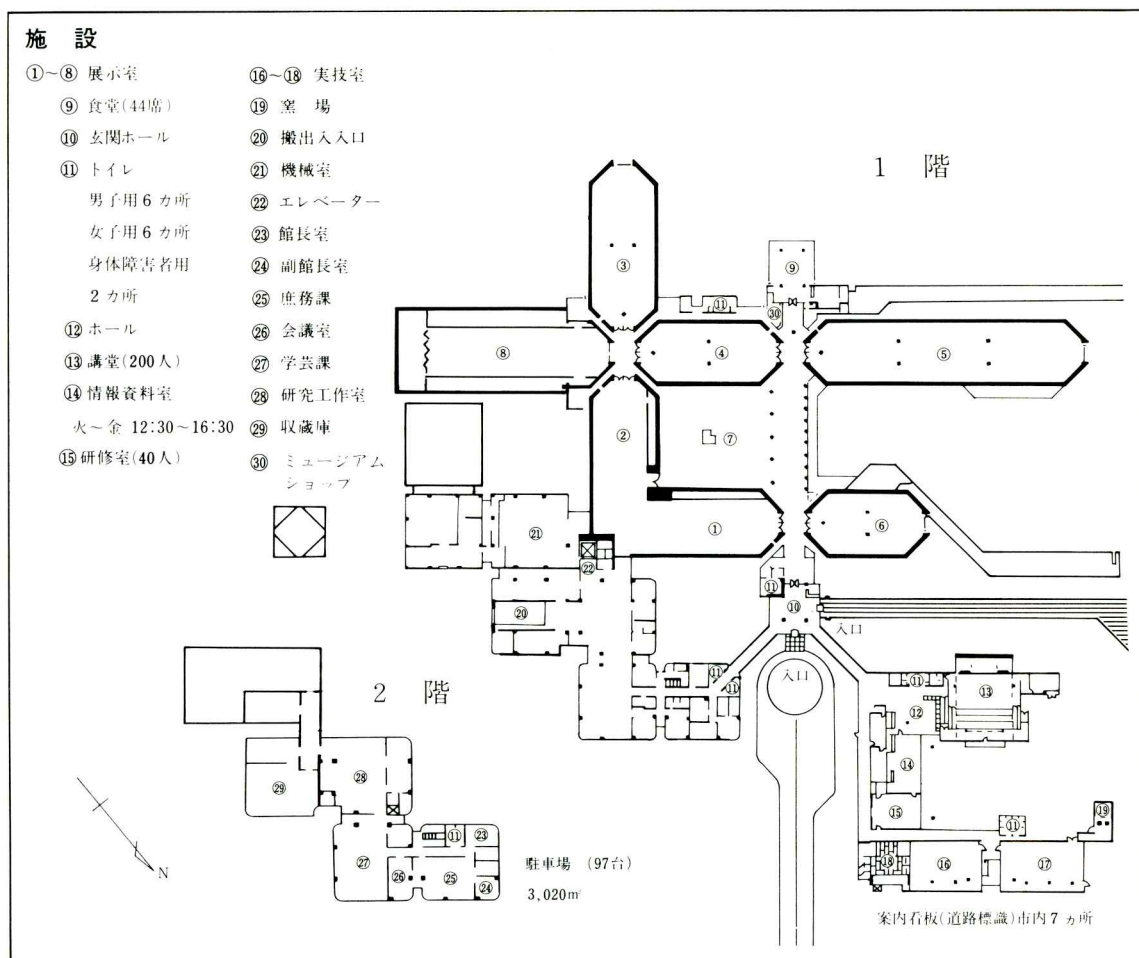
(単位: 千円)

事業名	予算額	事業概要	
運営費	展示事務費	31,426	特別展2, 企画展2, 常設収蔵作品展 実技講座・講演会の実施等, 館報・年報・事業案内等の発行 資料調査, 研究員会議等 施設管理, 設備・機械保守委託, その他運営費
	普及事業費	2,296	
	調査研究費	320	
	維持管理費	117,979	
施設整備費	備品購入費	43,800	美術資料, 美術図書, 展示用備品, 視聴覚備品, 図書備品 作品修復, 収蔵庫・機械室・展示棟増築監理 収蔵庫・機械室・展示棟増築工事, 受水槽改修工事
	委託費	10,850	
	工事費	717,970	
合計	924,641		

注) ○職員の人件費は含まない。 ○別に資料購入のための基金20億円。

概要

《美術館平面図》



敷地	33,058m ²
建物	10,664m ²
展示棟	6,343m ²
管理棟	2,819m ²
県民アトリエ	1,502m ²

外壁は常滑焼の特殊煉瓦仕上げ
 屋根は天然スレートの3枚重葺
 内装の壁面は布張り塗装仕上げ、化粧合板
 天井は岩綿吸音板張り
 床はビニールタイル張り(一部御影石・ジュータン張り)
 展示棟は全室を通じ段差がない
 外気導入には4段フィルター方式を採用

沿革

千葉県立美術館は、昭和43年にまとめられた県立博物館設置構想に基づき、建設計画をすすめて、昭和48年4月教育庁文化課に美術館準備班を置き、開館事務に当たった。同49年3月第1期工事の展示棟が完成し、4月1日千葉県立美術館として機関設置し、10月23日開館式を挙げ、一般公開を始めた。同51年2月に第2期工事の管理棟が、同55年2月に第3期工事の県民アト

リエ棟、更に同63年8月に増築工事の展示棟及び収蔵庫が完成した。

昭和63年8月31日 展示棟・収蔵庫・機械室増築工事完成
 平成元年2月28日 増設展示棟周辺芝張り工事竣工

63年度刊行物一覧

名 称	規格	頁数	発行部数	名 称	規格	頁数	発行部数
千葉県立美術館報				特別展「石井柏亭と近代絵画の歩み」			
「みる・かたる・つくる」				ポ ス タ ー	B 2		1,500
VOL.15 No.1~4(4回)	B 5	6	3,000	図 録	24×25.5	80	1,000
昭和62年度版				ち ら し	B 5	2	30,000
千葉県立美術館年報	B 5	55	1,000	車内吊ポスター	B 3		500
常設 収蔵作品展 目録				企画展「笹岡了一展」			
I 期	B 5	4	5,000	ポ ス タ ー	B 2		1,000
II期前	B 5	4	5,000	目 録	B 5	4	5,000
後	B 5	2	1,500	ち ら し	B 5	2	10,000
特別展「デュフィ展」				企画展「第3回現代日本具象彫刻展」			
ポ ス タ ー	B 2		1,500	ポ ス タ ー	B 2		1,000
図 録	24×24	114	1,000	図 録	24×25.5	96	1,500
ち ら し	B 5	2	30,000	ち ら し	B 5	2	2,000
車内吊ポスター	B 3		500	平成元年度事業案内	A 4	6	20,000
				房絵の美術史			
				No.55~66(12回)	B 5	4	500

平成元年度職員

館 長 竹 内 一 雄
 副 館 長 小 池 賢 博

庶務課
 庶務課長 高 浦 英 一
 副 主 査 加 藤 貞 美 治
 主 事 渡 辺 和 子
 " 豊 田 浩 昌
 主任運転手 篠 原 恒 雄
 住任用務員 長 島 則 子

学芸課
 学芸課長 米 田 耕 司
 研 究 員 中 地 昭 男
 学 芸 員 大 久 保 守
 研 究 員 田 坂 浩
 学 芸 員 前 川 公 秀
 技 師 相 川 順 子

普及課

普及課長 小 野 禮 子
 研 究 員 鈴 木 喜 久 夫
 " 池 田 伊 子
 主任技師 金 田 雅 成
 " 小 泉 幸 代

平成元年度主要事業

特別展

(千葉県立美術館開館15周年記念特別展)
— 県民の日記念事業 —

房総と近代美術

4月20日(木)～6月25日(日)

房総ゆかりの洋画家浅井忠や金工家香取秀真・津田信夫など近代房総の美術家の作品を核に、写生地房総と近代美術のかかわりを房総をモチーフに描いた作品や浅井忠らに関連して、ミレー、コロロはじめ国内外の作家の作品など、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・版画その他関係資料により、房総と近代美術のかかわりを展覧します。

白樺派と近代美術

9月9日(土)～10月15日(日)

日本文学の展開に大きな足跡を残すとともに、日本内外の美術の紹介につとめて近代日本美術の発展に大きな影響を与えた“白樺派”は、本県とのかかわりも深く、大正期に武者小路実篤や志賀直哉、柳宗悦、バーナード・リーチなどが居住し多くの文人との交流の舞台として白樺派の隆盛時代を築きました。本展では、白樺派同人及び仲間画家の作品、「白樺」により広く紹介されたセザンヌ、ロダンをはじめ印象派、後期印象派、20世紀美術の巨匠の作品も併せて展覧します。

ドイツ・ロマン派19世紀絵画展

11月18日(土)～12月24日(日)

西ドイツの代表的な美術館の一つであるデュッセルドルフ美術館の所蔵品の中から、同館の特色であるドイツの黄金時代といわれる19世紀絵画に焦点をあて、古典主義に対応して起こったロマン主義時代のドイツ絵画を中心に、フリードリヒからベックリオンまでを展覧します。

企画展

常設収蔵作品展

I 7月1日(土)～10月15日(日)

II 12月14日(木)～2月4日(日)

本館が所蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画の作品を2期にわけて順次展覧するほか、新たに収蔵された作品を紹介します。

房総の美術家シリーズ(19)

山本不二夫展

7月1日(土)～7月30日(日)

山本不二夫(1906～1984)は、千葉県佐原市出身で、二科会、日本水彩画会を主舞台に活躍した洋画家です。本県にあっては、千葉県美術会(県展)の創設以来の役員で、常任理事をつとめ、県の教育功労者(芸術文化)でもあります。本展では、本県はもとより近代日本の洋画界発展に貢献した山本不二夫の遺作を展覧し、その画業を回顧します。

第13回千葉県移動美術館

三橋記念館(鎌ヶ谷市)

11月22日(木)～12月4日(日)

酒々井町中央公民館

12月7日(木)～12月19日(火)

優れた美術作品を、より多くの県民の方々に鑑賞していただくため本館所蔵作品を中心とした展覧会を2会場で開催します。

講演会

特別展に合わせて年3回開催

美術を語る会

実技的なことを中心に年10回開催

実技講座

講座名	日数	定員
日本画講座	10(7)	20
洋画講座(1)	10(5)	30
洋画講座(2)	10(5)	30
洋画講座(3)	10(5)	30
版画講座	12(7)	20
彫刻講座	10(7)	15
陶芸講座(1)	9(6)	30
陶芸講座(2)	9(6)	30
金工講座	12(8)	15
書芸講座(1)	3(2)	25
書芸講座(2)	3(2)	25
デッサン講座	16	参加自由

()は指導日数

利用案内

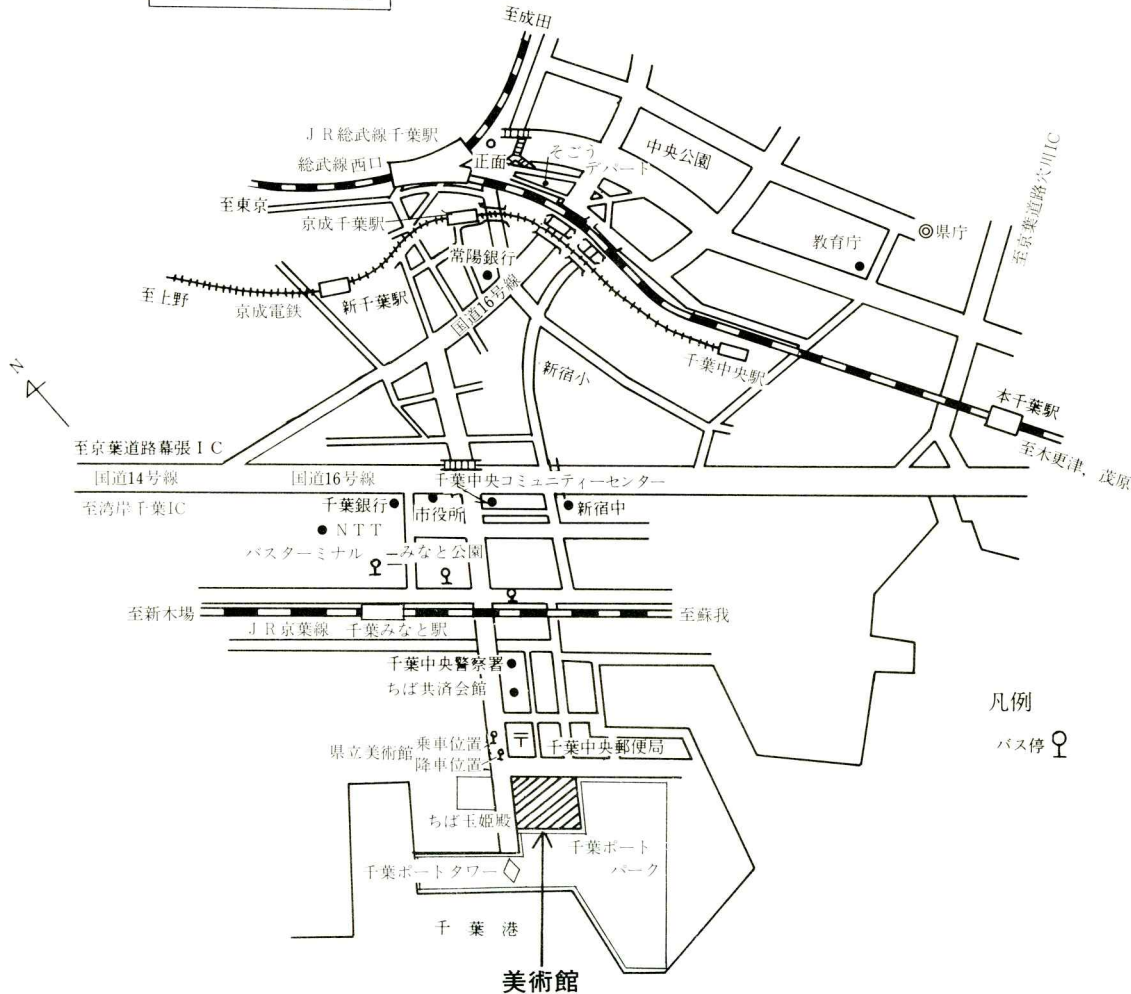
開館時間

- 開館時間** 午前9時から午後4時30分まで
- 休館日**
- ・月曜日（ただし、月曜が祝日のときは開館し、翌日休館）
 - ・年末年始（12月26日～1月4日）
 - ・展示替え等のため、必要があるとき。
- 観覧料**
- ・無料（ただし、特別展は有料）
- 団体観覧**
- ・団体に来館されるとき、あらかじめ御連絡いただければ館の概要や作品等の解説をいたします。

交通

- ★ J R 総武線千葉駅下車
 - 徒歩23分。
 - バス⑩番(千葉そごう前)のりばから「千葉ポートタワー」行にて15分、「県立美術館前」下車、徒歩1分。
- ★ J R 京葉線千葉みなと駅下車、徒歩8分。

案内図



千葉県立美術館年報（昭和63年度）
発行 千葉県立美術館
〒260 千葉市中央港1-10-1
TEL 0472（42）8311（代表）
印刷 有限会社正文社

